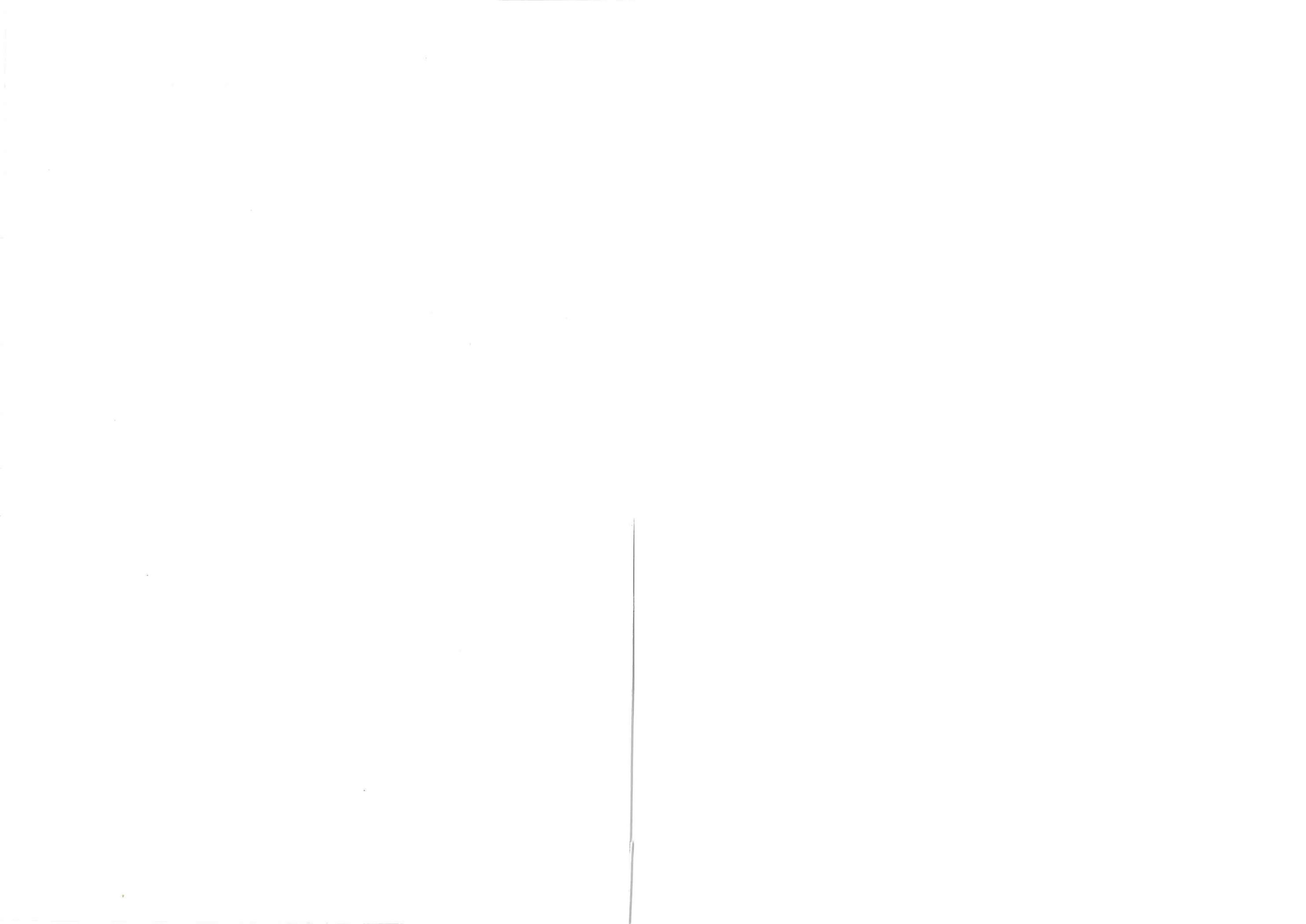


南富良野町特定環境保全公共下水道基本計画概要説明書

項	目	全体計画(15年)	認可計画(10年)	基本計画説明書 参照ページ			
1. 下水道計画目標年度		平成15年度	平成10年度	P-64, 79			
2. 流 総 の 状 況 (石狩川)		調 査 中		P-22, 123			
3. 排 除 方 式 (分流・合流の別)		分 流 式	分 流 式	P-65			
4. 計 画 区 域 面 積		172ha (45ha)	99ha	P-64, 77			
5. 下 水 道 計 画 人 口	定 住	2,670人	2,268人	P-79			
	観 光 宿 泊	2,630人	405人	P-92			
	日 帰 り	1,900人	380人	P-104			
	計	7,200人	3,053人	P-79			
6. 汚 水 計 画	原 単 位	定 家 庭 汚 水 量	日 平 均	325ℓ/人・日	P-112		
			日 最 大	430ℓ/人・日	P-112, 126		
			時 間 最 大	770ℓ/人・日	P-112, 126		
		住 地 下 水 量		50ℓ/人・日	P-130		
		汚 濁 負 荷 量	B O D	65g/人・日	P-140		
			S S	49g/人・日	P-140		
		観	宿 泊 汚 水 量 (地 下 水 含 む)	日 平 均	110ℓ/人・日	P-134	
				日 最 大	140ℓ/人・日	P-134	
				時 間 最 大	240ℓ/人・日	P-134	
			日 帰 り 汚 水 量 (地 下 水 含 む)	日 平 均	60ℓ/人・日	P-134	
				日 最 大	75ℓ/人・日	P-134	
				時 間 最 大	127ℓ/人・日	P-134	
	光	汚 濁 負 荷 量	宿 泊	B O D	29g/人・日	P-144	
				S S	26g/人・日	P-144	
			日 帰 り	B O D	15g/人・日	P-144	
				S S	13g/人・日	P-144	
		計 画 汚 水 量	定 住	家 庭 汚 水 量	日 平 均	868m <sup>3</sup> /日	P-136
					日 最 大	1,148m <sup>3</sup> /日	P-136
				時 間 最 大	2,056m <sup>3</sup> /日	P-136	
	観 光		宿 泊 汚 水 量	日 平 均	15m <sup>3</sup> /日	P-136	
				日 最 大	368m <sup>3</sup> /日	P-136	
				時 間 最 大	631m <sup>3</sup> /日	P-136	
			日 帰 り 汚 水 量	日 平 均	8m <sup>3</sup> /日	P-136	
				日 最 大	143m <sup>3</sup> /日	P-136	
			時 間 最 大	241m <sup>3</sup> /日	P-136		
工 場 排 水	日 平 均・日 最 大		-m <sup>3</sup> /日	-m <sup>3</sup> /日	P-130		
	時 間 最 大		-m <sup>3</sup> /日	-m <sup>3</sup> /日	P-130		
地 下 水 量			134m <sup>3</sup> /日	113m <sup>3</sup> /日	P-136		
合 計	日 平 均	1,025m <sup>3</sup> /日	857m <sup>3</sup> /日	P-136			
	日 最 大	1,793≒1,800m <sup>3</sup> /日	1,174≒1,200m <sup>3</sup> /日	P-136			
	時 間 最 大	3,062m <sup>3</sup> /日	2,004m <sup>3</sup> /日	P-136			
7. 雨 水 計 画	雨 水 流 出 量 算 定 式	合 理 式	-	P-155			
	降 雨 強 度 公 式	$I = \frac{2,221}{t+17}$	-	P-155			
	確 率 年	10年	-	P-166			
	時 間 降 雨 量	28.8mm/hr	-	P-166			
	用 途 別 流 出 係 数	住 居 系	0.45	-	P-171		
		商 業 系	0.55	-	P-171		
		工 業 系	0.35	-	P-171		
総 括 流 出 係 数	0.30~0.50	-	P-173				
8. 処 理 施 設 計 画	処 理 方 式	オキシデーショナルディッチ法	オキシデーショナルディッチ法	P-185, 245			
	処 理 能 力 (晴 天 時 1 日 最 大)	1,800m <sup>3</sup> /日	1,200m <sup>3</sup> /日	-			
	処 理 場 敷 地 面 積	113アール	113アール	-			
		(流 入)	(放 流)	-			
	予 定 処 理 水 質	B O D	180mg/m <sup>3</sup> → 20mg/ℓ	-	-		
		S S	170mg/ℓ → 70mg/ℓ	-	-		
	放 流 先	河 川 名	松井川 → 空知川 (かなやま湖)	-	P-175		
		環 境 基 準 名、達 成 期 間	な し	-	P-214		
		低 水 流 量	0.575m <sup>3</sup> /sec	-	P-223		
		満 水 水 位	E L = 345.00m	-	P-223		
		最 低 水 位	E L = 320.00m	-	P-223		
		総 貯 水 量	150,450,000m <sup>3</sup>	-	P-223		
		有 効 貯 水 量	130,420,000m <sup>3</sup>	-	P-223		
		現 況 水 質	B O D 0.5mg/ℓ S S 3mg/ℓ	-	P-215		
	汚 泥	利 水 状 況	洪水調節、灌漑、上水道、発電	-	P-223		
		汚 泥 処 理 方 法	濃縮→脱水→乾燥	濃縮→脱水	P-255		
		汚 泥 処 分 方 法	緑農地利用	緑農地利用	P-255		
汚 泥 処 分 量		1.7t/日 (1.2m <sup>3</sup> /日)	1.1t/日 (0.8m <sup>3</sup> /日)	P-279			
9. 管 渠	汚 水 管 渠 延 長	9,500m	9,500m	20ha以上			
	雨 水 管 渠 延 長	-m	-m	-			
	合 流 管 渠 延 長	-m	-m	-			
	合 計	m	m	-			



# 目 次

第 1 章	基 礎 調 査	
第 1 節	南富良野町の概要	
1-1	位置及び沿革	1
1-2	道路、交通状況	3
1-3	河川、水路状況	8
1-4	地下埋設物状況	11
第 2 節	自 然 条 件	
2-1	地形及び地質	13
2-2	気象条件	18
第 3 節	関連計画に関する調査	
3-1	南富良野町第3次総合計画	21
3-2	石狩川流域別下水道整備総合計画	22
3-3	土地利用計画	23
第 4 節	人 口	
4-1	行政人口の推移	43
4-2	就業人口の推移	44
4-3	観光人口	46
4-4	人口密度の字別分布	46
第 5 節	上 水 道	
5-1	上水道の現況	49
5-2	上水道給水実績	52
第 6 節	産 業 の 現 況	
6-1	南富良野町の産業の現況	55
第 7 節	雨水計画関連調査	
7-1	樋門の現況及び河川計画	57
7-2	浸水状況	59
第 8 節	そ の 他 の 調 査	
8-1	し尿処理の現況	61

## 第 2 章 基本計画

### 第 1 節 下水道計画の基本的事項

1-1	計画目標年次の決定	63
1-2	下水道計画区域の決定	63
1-3	排除方式の決定	65
1-4	汚水処理処分計画	67
1-5	雨水排除計画	67
1-6	下水輸送方法	67
1-7	管路施設	68
1-8	ポンプ所(マンホール形式)	72
1-9	吐口	74
1-10	法令上の規則	74

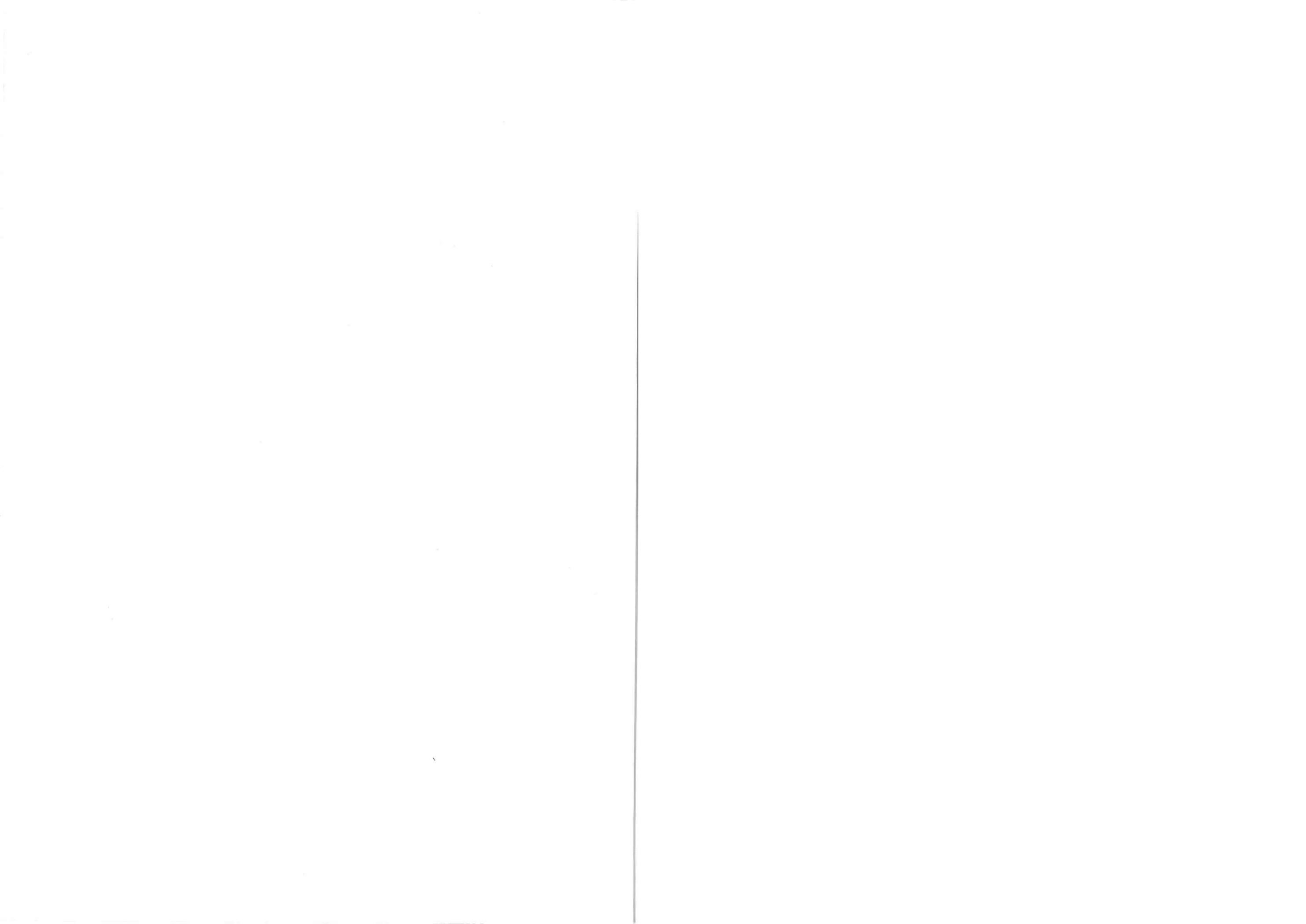
### 第 2 節 汚水処理計画

2-1	計画処理区域及び処理区域の設定	77
2-2	計画処理人口	79
2-3	計画汚水量	112
2-4	計画汚水量総括表	136
2-5	ヘクタール当り汚水量の設定	138
2-6	計画汚濁負荷量及び流入水質	140
2-7	除外施設	150
2-8	水処理の対象外とする工場	150

### 第 3 節 雨水処理計画

3-1	雨水流出量算定式	155
3-2	降雨強度公式	155
3-3	降雨強度式の計算	156
3-4	確率年及び降雨強度公式の決定	166
3-5	流達時間	167
3-6	排水区域の設定	170
3-7	雨水流出係数	170
3-8	計画放流雨水量	173

第 4 節	根幹的施設の配置計画	
4-1	終末処理場位置の選定	175
4-2	空知川(かなやま湖)水質向上の見通し	178
4-3	管渠位置の決定	226
4-4	ポンプ所位置の決定	227
4-5	下水道計画区域の統合の検討	228
第 5 節	終末処理場	
5-1	汚水処理方法の決定	245
5-2	汚泥処理の方法	255
5-3	浄化センター設計計算書	263



## 第 1 章 基 礎 調 査

查閱圖說 卷一終

## 第 1 節 南富良野町の概要



## 第1節 南富良野町の概要

### 1-1 位置及び沿革

南富良野町は北海道のほぼ中央に位置し、東西に貫流する空知川に沿って6つの集落から形成されている。四方が山並みに囲まれ、その大部分は自然のままの豊かな森林から成っており、東は十勝管内新得町、西は空知管内夕張市、南は占冠村、また北は富良野市に隣接している。町のほぼ中間部に金山ダムによってできた人造湖（かなやま湖）が豊かな水を湛えている。

本町の位置は、東経142度35分・北緯43度10分、面積665.53km<sup>2</sup>で東西43.3km・南北45.9kmの広ぼうで海拔は350m（役場庁舎所在地）である。

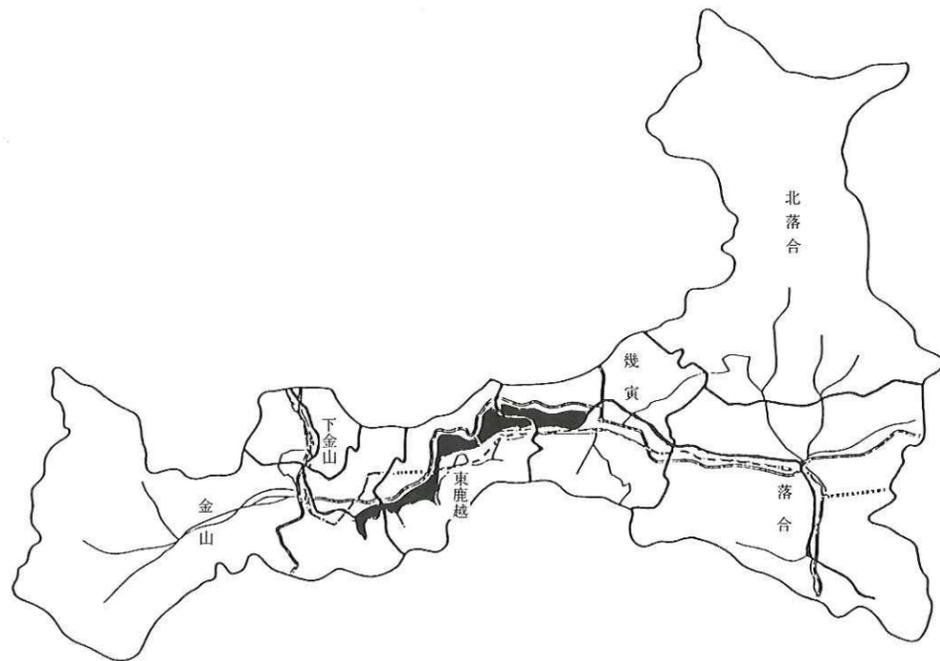
明治24年に砂金採取者が日高山脈を越え金山に入地、茅屋を建て住みついたのが開基とされ、同28年4月、奈江村戸長役場創設時にその管轄下に属することとなる。

その後、明治41年に南富良野村外1ヵ村戸長役場創設、大正8年には南富良野村は2級町村制が施行され占冠村とともに、独立村となった。昭和7年に南富良野村は組合役場を解き独立し、同42年4月より町制が施行された。

図1-1 南富良野町位置図

●南富良野町位置図

- 位置／東経142度35分・北緯43度10分
- 面積／665.53km<sup>2</sup>
- 広ぼう／東西43.3km・南北45.9km
- 海拔／350m (役場庁舎所在地)



## 1-2 道路・交通の状況

南富良野町における道路網は滝川と釧路を結ぶ国道38号線と旭川と浦河を結ぶ237号が基幹道路となっている。総延長は40kmで100%改良、舗装がされているが交通量の増大と車両の大型化が進んでいることから、道路の拡幅と歩車道の整備が必要となっている。

道道は金山・幾寅停車場線、占冠・落合停車場線及び石勝高原幾寅線の3路線があり、総延長37.5km、舗装率は85%に達し、これらの路線は富良野・大雪リゾート地域の開発のため重要な路線であり、特に整備の遅れている石勝高原幾寅線の整備が大きな課題となっている。

町道は117路線、総延長は190kmにおよんでいるが、町内の各集落を結ぶほか、集落、市街地内の生活道路として整備が進められ、現在では改良率41.1%（78km）、舗装率25.7%（49km）となり、観光・産業道路として重要な路線である幾寅鹿越線について鹿越大橋の問題解消と交通量の増加に対応するため新ルート橋の整備が必要となっている。

道路の状況（平成3年3月現在）

（単位：m、%）

	路線数	延 長	改良済延長	改良率	舗装済延長	舗装率
国 道 38 号	1	24,263	24,263	100.0	24,263	100.0
国 道 237 号	1	15,716	15,716	100.0	15,716	100.0
道道金山幾寅停車場線	1	18,406	18,406	100.0	18,406	100.0
道道占冠落合停車場線	1	10,234	10,234	100.0	10,234	100.0
道道石勝高原幾寅線	1	8,867	3,324	37.5	3,324	37.5
町 道	117	189,630	77,971	41.1	48,751	25.7
合 計	122	267,116	149,914	56.1	120,694	45.2

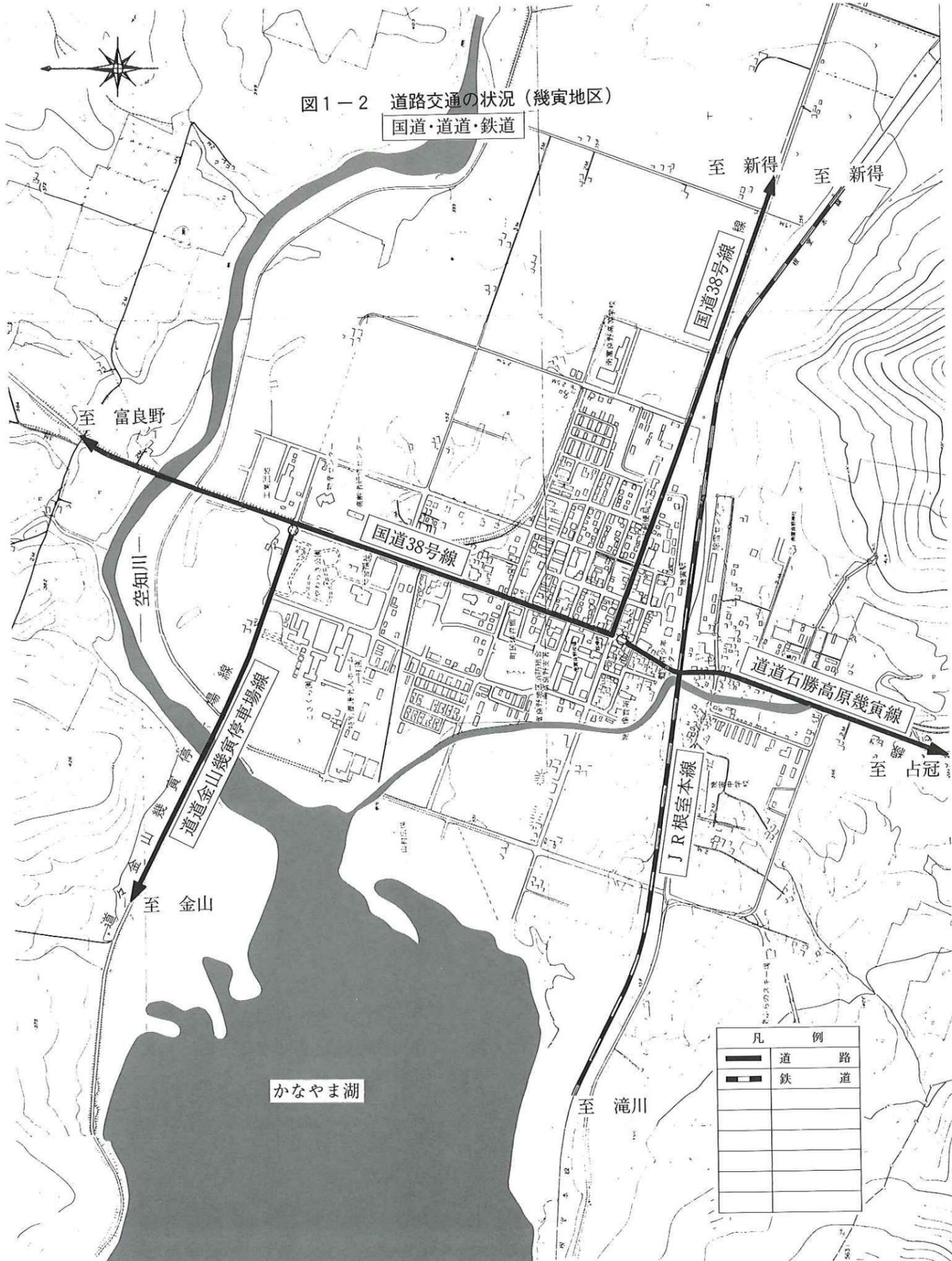
近年では高速交通体系の整備が全国的な課題となっており、南富良野町では札幌・千歳方面と道東を結ぶ北海道横断自動車道の通過が予定されているが、ルートやインターチェンジの位置は未定で、今後、リゾート開発等が期待されるなかで、周辺市町村との連携により積極的に整備を要請していく必要がある。また、産業の開発と振興をはかる路線として産業開発道路の検討が必要となってきた。

鉄道は根室本線が滝川と十勝、根室方面を結んでおり、町内には下金山、金山、東鹿越、幾寅、落合の5つの駅がある。根室本線は札幌と道東を結ぶ幹線であったが、石勝線開通により滝川と新得、帯広を結ぶ地域の交通手段となってきた。

一方、長距離の都市間バスは旭川と帯広を結ぶ民間のバス路線が町内で停車している。今後、町の整備やリゾート開発にあたっては交通の便の改善は重要な課題であり、広域的なバス路線の整備やJRへのダイヤ改正の要請などを進め、住民の足を守る上からも利便性の高い公共交通機関の確保をはかる必要がある。

図1-2 道路交通の状況(幾寅地区)

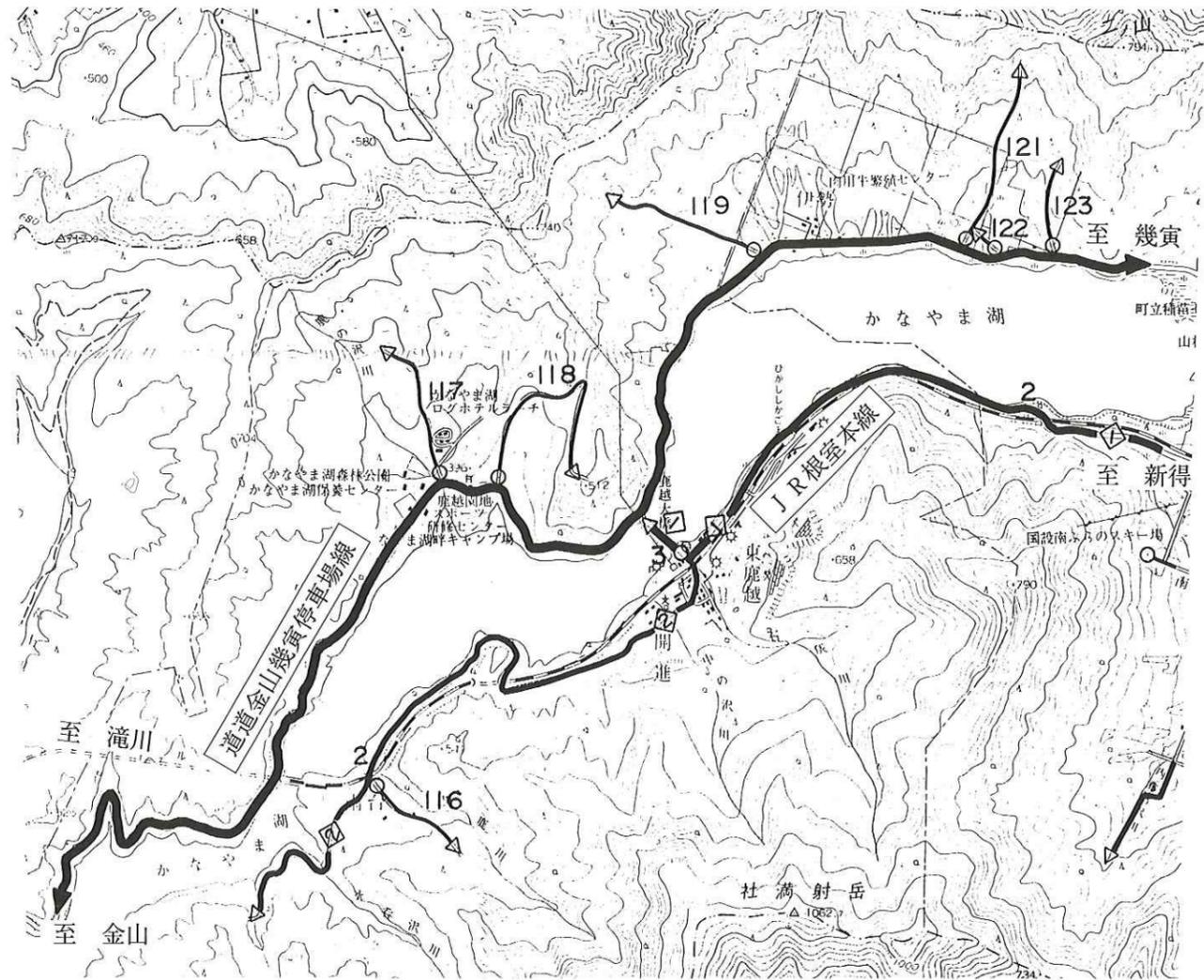
国道・道道・鉄道



凡	例
——	道 路
—●—	鉄 道

図1-3 道路交通の状況(東鹿越、森林公園地区)

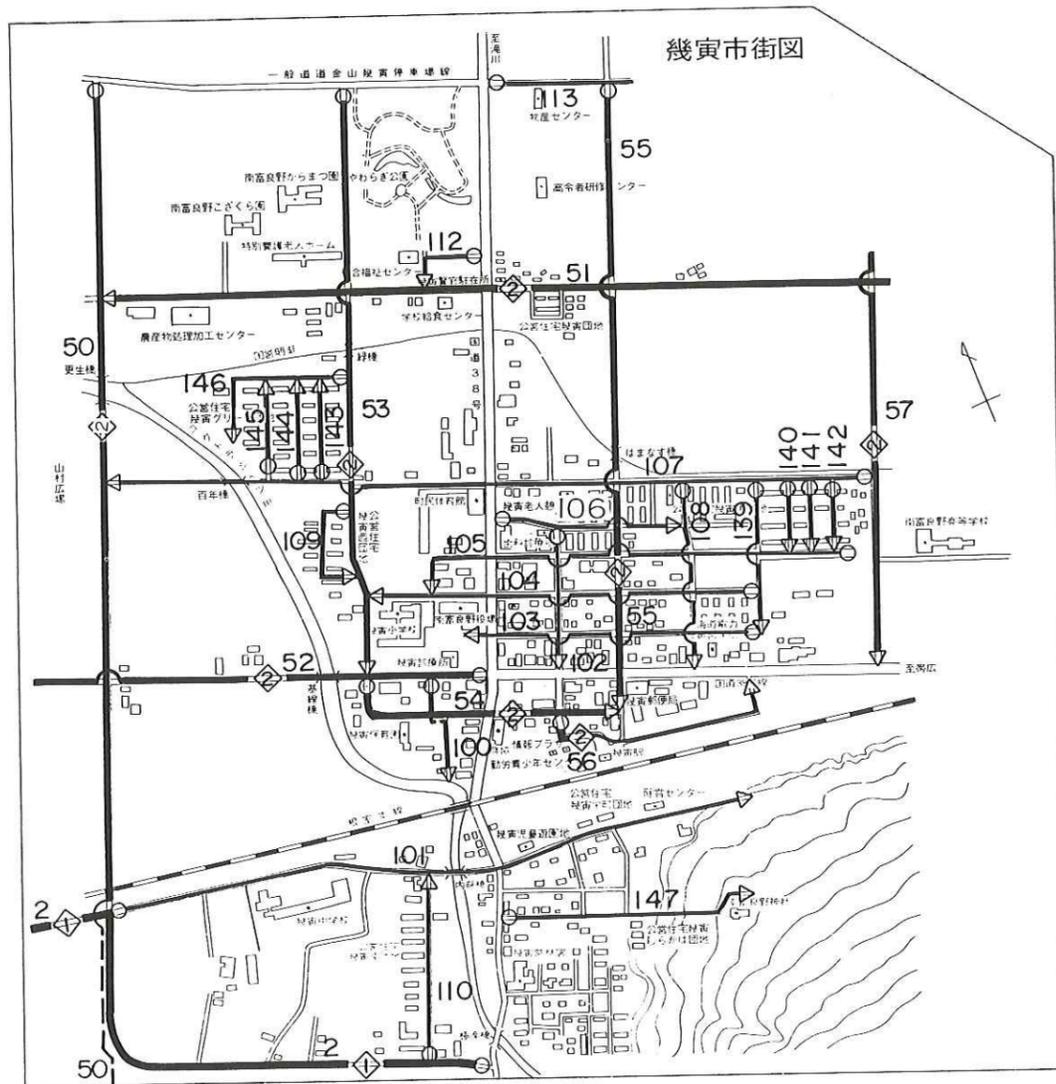
道道・町道・鉄道



凡 例	
	道 路
	鉄 道
	1級幹線道路
	2級幹線道路
	その他道路
	未供用区間

図1-4 道路交通の状況(幾寅地区)

町道



凡 例	
—◇—	1級幹線道路
—○—	2級幹線道路
—	その他道路
.....	未供用区間

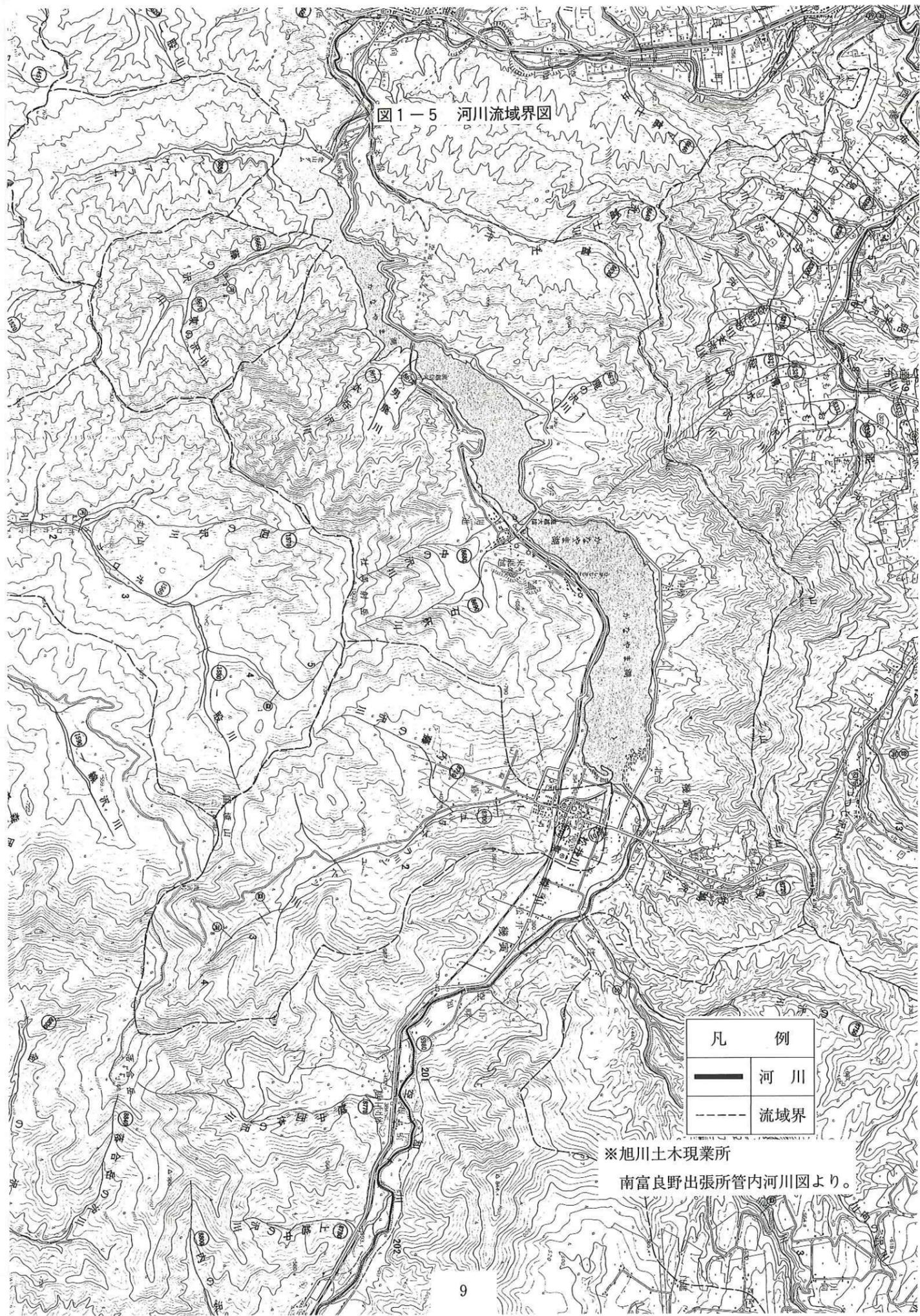
### 1-3 河川・水路の状況

南富良野町内幾寅地区には、一級河川空知川、2級河川ユクトラシュベツ川および普通河川松井川の3河川があり、いずれの河川もかなやま湖に注がれている。これらの河川の幾寅地区内集落部での河川流域部における大雨等による大きな氾濫はほとんどないが、極地的な排水不良による浸水はまみられる状況である。道路排水施設水路以外に系統だった雨水排水施設は未整備で、今後下水道などによる雨水排除施設の整備が待たれる現状となってきた。

表1-1 南富良野町内の主な河川の状況

河川名	流域面積	延長	管理者
空知川	2,573.0km <sup>2</sup>	130.1km	開発局・北海道
藤の沢川	7.9km <sup>2</sup>	3.6km	北海道
ユクトラシュベツ川	23.9km <sup>2</sup>	8.5km	
幾寅川	36.8km <sup>2</sup>	13.3km	
シーソラプチ川	208.9km <sup>2</sup>	41.9km	
十梨別川	132.5km <sup>2</sup>	18.2km	南富良野町
パンケアラヤ川	21.5km <sup>2</sup>	7.6km	
富士川	10.8km <sup>2</sup>	6.5km	
ルウオマンソラプチ川	91.4km <sup>2</sup>	35.4km	
パンケヤーラ川	41.2km <sup>2</sup>	13.2km	
松井川	0.6km <sup>2</sup>	13.4km	
外66河川	254.4km <sup>2</sup>	257.1km	

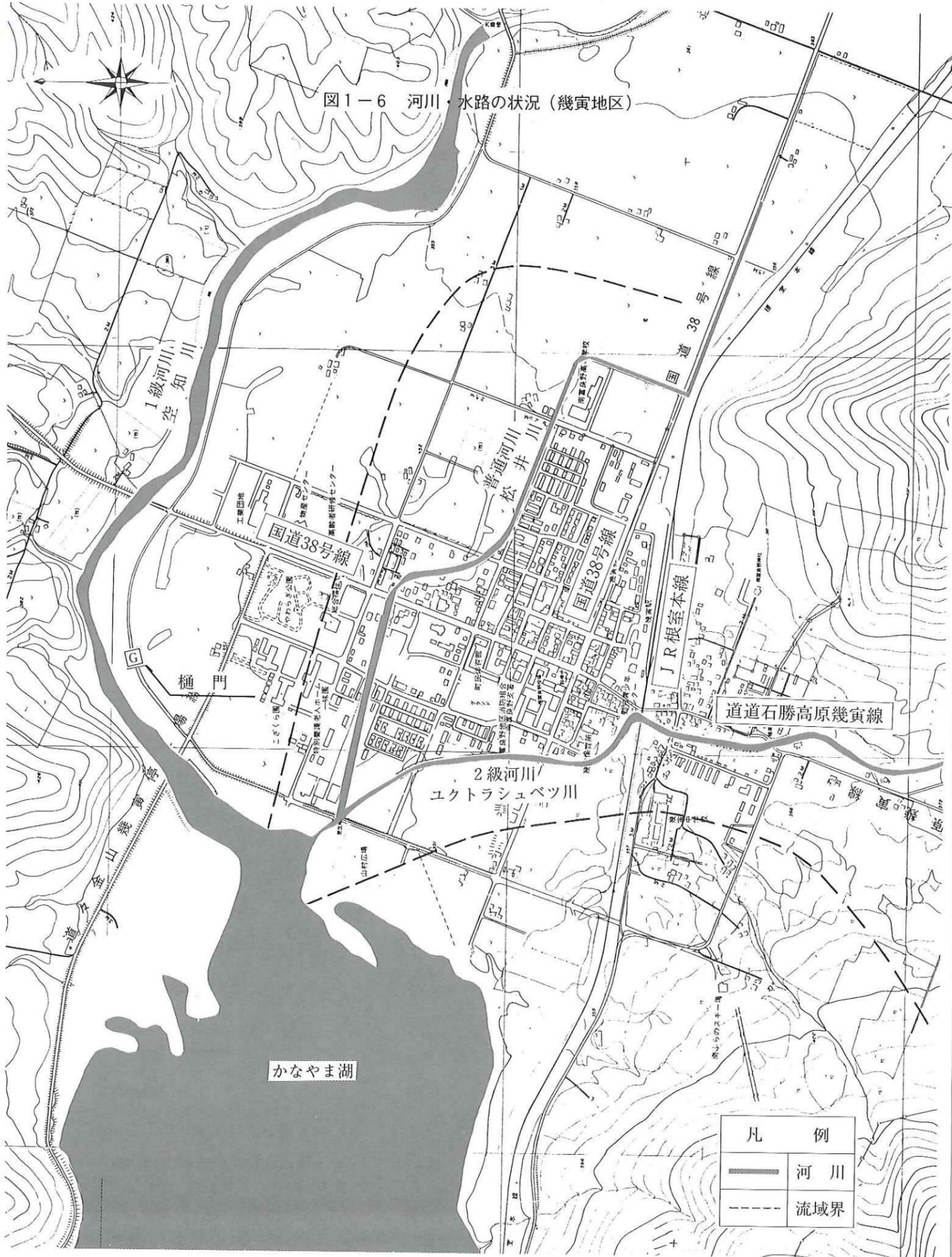
図1-5 河川流域界図



凡 例	
	河 川
	流域界

※旭川土木現業所  
南富良野出張所管内河川図より。

図1-6 河川・水路の状況（幾寅地区）



#### 1-4 地下埋設物の状況

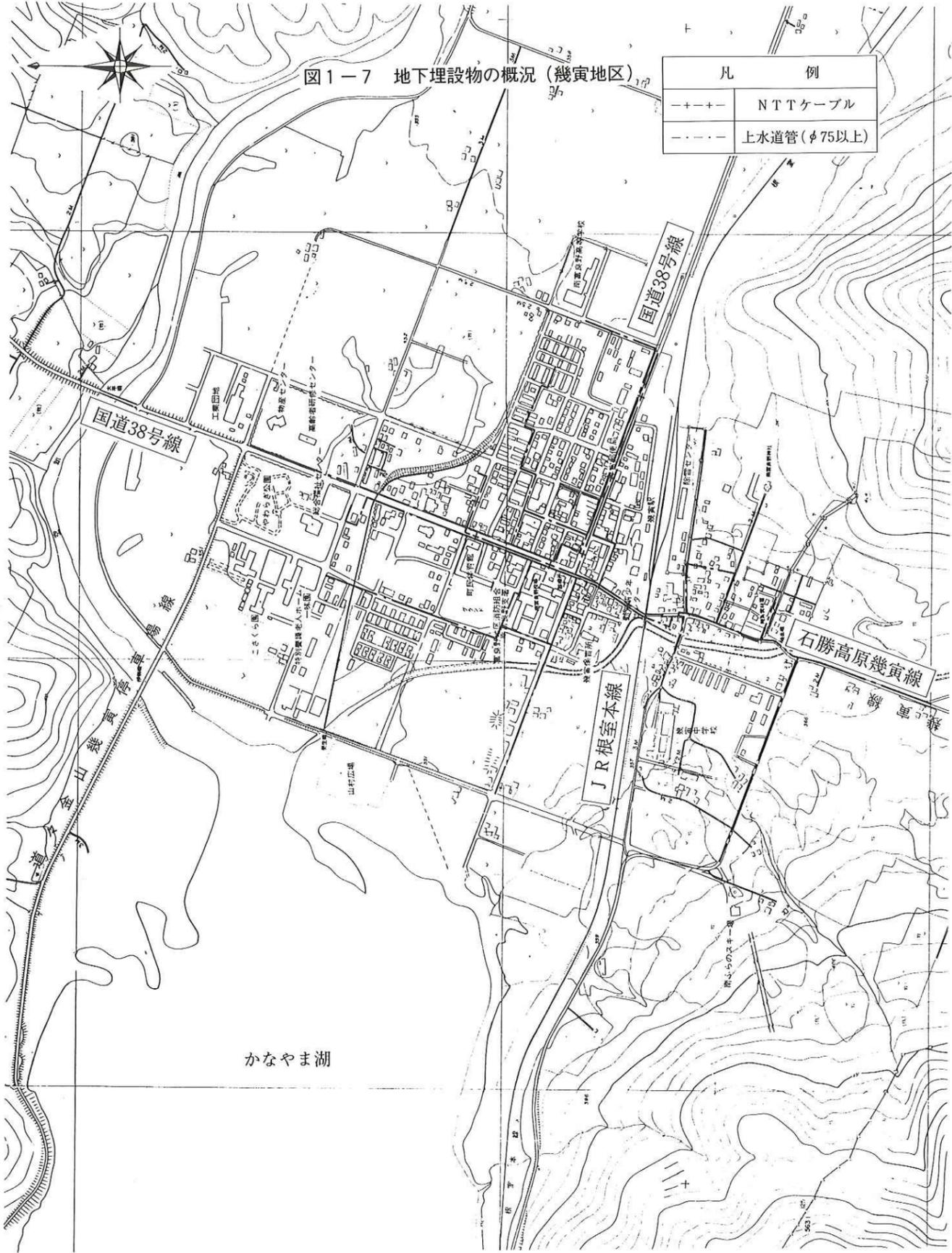
下水道事業は、都市施設としては最も後発と言っている事業であるだけに、先行して行われた事業の埋設物は施設計画に大きな影響を及ぼす。計画段階では、主として図上資料で行うため、工事実施段階でルートの変更を余儀なくされることもある。

南富良野町幾寅地区は、NTTケーブル、上水道管、排水管等が布設済みであり、かつ占有位置も公共下水道の污水管と平行するため工事を実施するうえで重大な困難がともなうことが予想される。通常の下水道の整備手順は、下部に位置する污水管を先行して布設完了後、時期をみてから、その上部に大口径の雨水管を築造整備するものである。この施工手順が逆となるため、隣接する地盤の上部に排水管を抱え深部を掘削することとなるので、緻密な計画性が要求される。また、公共下水道による雨水排水施設整備も既設管を生かしながら切り換えるために、既設管のルートに制約される要素が多くなる。

尚、下水道事業で既設埋設物を切り廻しする場合は、原因者負担によって本事業の中で行うことになる。

図1-7 地下埋設物の概況(幾寅地区)

凡 例	
---+---	NTTケーブル
-----	上水道管(φ75以上)



## 第 2 節 自然条件



## 第 2 節 自然条件

### 2-1 地形及び地質

町域の大部分が、比較的ゆるやかな斜面をもつ標高800~1000メートルの山並みをつらねる山間部からなっている。この山間部を東西に横切って、空知川が流れ、ここには農業用水などの多目的利用のため昭和41年に完成した金山ダム（かなやま湖）があり、この流域に東鹿越、幾寅、落合、北落合の4つの集落がある。空知川は落合市街から上流では、北から南流するシイソラプチ川と南から北流するルウオマンソラプチ川の2支流に分岐する。この二つの流域は、ほぼ南北方向に一直線上に並び、特に、ルウオマンソラプチ川流域には、標高500~600メートルの平坦面が発達している。

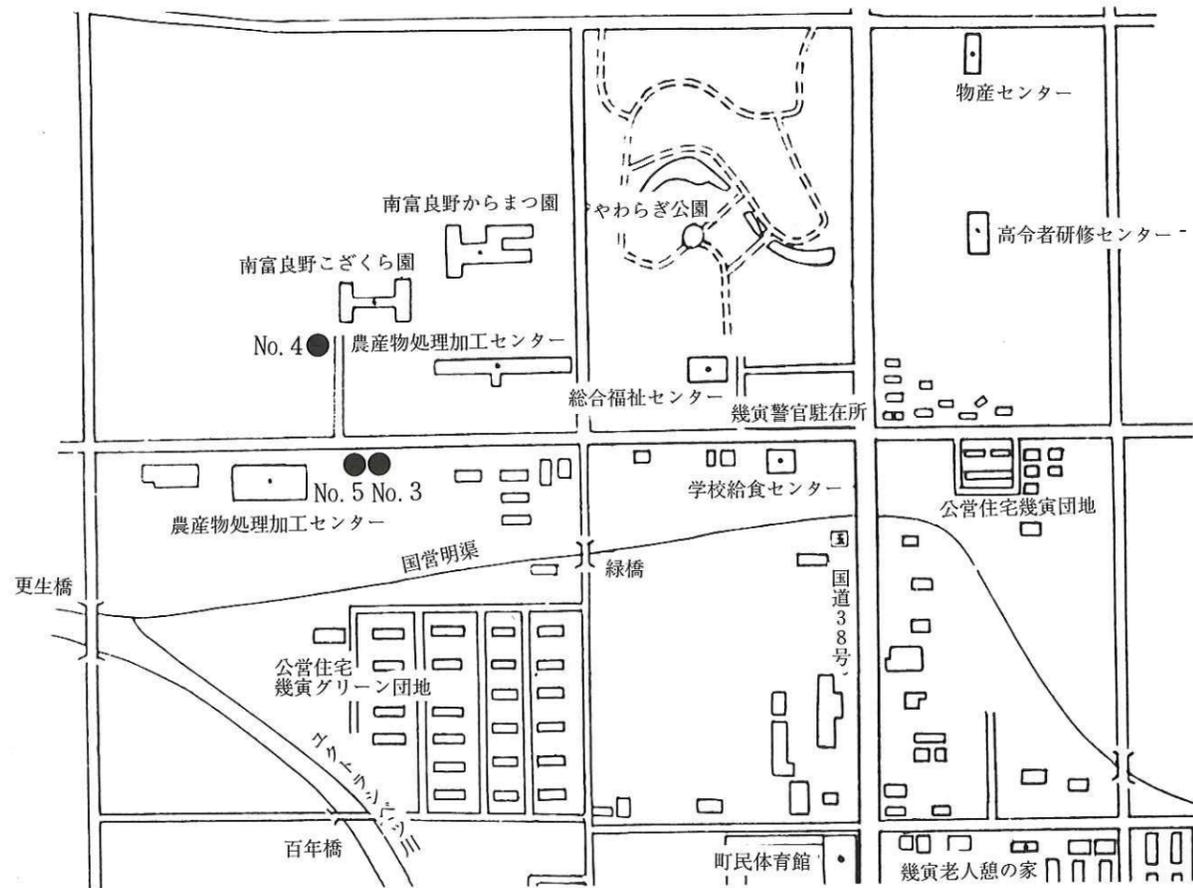
一方、南富良野町と夕張市との西側境界上には、北海道の槍といわれる芦別岳（1726.5メートル）や夕張岳（1667.8メートル）などがそびえる山岳地帯である。また、南富良野町と新得町との東側境界上には、狩勝峠があり、向かい側にそびえる落合岳（1168メートル）とともに、なだらかな台地状を呈している。

南富良野町付近の地層は、上部より第四紀完新世の氾濫原堆積物ならびに崖錐堆積物、第四紀更新世の河岸段丘堆積物ならびにルウオマンソラプチ礫層、第四紀初期から新第三紀末の十勝熔結凝灰岩、先白亜紀の主夕張層、山部層という地質層序で構成されている。

(1) 台地に分布する火山灰 前述した狩勝峠付近を含む本地域の北部には、第三紀末期~第四紀初期（約200万年前~120万年前）にかけて噴出した火山灰が堆積している。これは、十勝熔結凝灰岩と呼ばれ、白~灰色を呈している。熔結凝灰岩とは、火山灰や軽石を空中に噴き上げる一般的な火山噴火と違い、低地部を流下して堆積したもので、その時に高温状態が長時間保持されるため、火山灰や軽石が溶けてくっつき合って固い岩石状となる部分のことを言うのである。この熔結凝灰岩は、層雲峡の大函・小函が有名であり、十勝岳火山群（前富良野岳、富良野岳、三峰山、上木ロカメトック山、十勝岳、美瑛岳、美瑛富士、辺別岳、オプタテシケ山など）と関連があるといわれている。

(2) 盆地をつくった時代 落合市街に向かって南から北に流れる前述のルウオマンソラプチ川流域には、ルウオマンソラプチ礫層（酒匂他、1967）と呼ばれる礫層が分布し、標高500メートル～600メートルの平坦面を形成している。この平坦面の形成についての詳細は不明であるが、中期更新世（約70万年前～13万年前）より新しいと考えられる。しかも、富良野盆地周辺には、活断層と呼ばれる中期更新世以降に活動した断層も知られるようになり、盆地の形成は比較的新しい地質時代に形成されたことを示唆しているようである。したがって、南富良野町が現在の姿になった時代を探るためには、より詳細な地質・地形調査が必要であり、今後の課題となるものである。

下図及び次頁以降に特別養護老人ホーム一味園と南富良野こざくら園付近のボーリングの位置と柱状図を示す。



ボーリング柱状図

ボーリング名 No.3

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 調査月日
		0.70	0.70		盛土	暗褐			砂質シルト。 上部に礫を若干混入する。	
1		0.40	1.10		砂質シルト	褐				
2					砂					
3					灰	褐				
4					砂	褐			礫径φ70mm以下からなり砂分は20~30%内外で構成。 深度6.00m以深より火山灰分を5~10%内外混入あり。	
5					灰	青				
6					灰	青				
7					灰	青				
8		6.90	8.00		砂質シルト					
										3.90 ▽ ≡

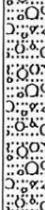
ボーリング柱状図

ボーリング名 No. 4

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日
		0.60	0.60		盛土	褐			礫混じりシルト。	
1		0.60	1.20		砂質シルト	褐			深度0.60~0.70m シルトを挟む (暗褐)	
		0.40	1.60		礫混じり砂	褐灰			礫径φ40mm以下の礫を10~20%混入し、砂は細中砂主体で、不均一である。	
2									礫径φ60mm以下からなり砂分は10~20%内外で構成。 深度5.00m以深よりコア体長5~10cmの玉石を点在する。 また、深度6.00m以深から火山灰を10%内外混入あり。	
3										
4						青灰				
5					砂礫	褐灰				
6										
7		5.90	7.50							

ボーリング柱状図

ボーリング名 No.5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相対 密度	相対 稠度	記 事	孔内水位 (m) 測定 年月日
		0.70	0.70		盛土	暗褐			砂質シルト。上部0.20m迄、礫を10%内外混入。	3.90 ▽ ≡
1		0.30	1.00		礫混じり 砂質シルト	褐			礫径φ30mm以下を20~30%内外混入。	
2					砂礫	灰褐 褐灰			コア体長10cmの玉石を点在し他は礫径φ70mm以下からなり 砂分は20~30%内外で構成。	
3					砂礫	灰褐 褐灰				
4		4.00	5.00							
5										

## 2-2 気象条件

本町における気象観測は、旭川測候所の管内気象観測所の一つとして南富良野村占冠村組合役場に委託され、大正13年1月より始められた。この観測所は「南富良野村役場」とされ、北緯43度10分、東経142度34分、標高359.6メートルに置かれた。昭和7年占冠村との組合解除により委託先は南富良野村に改められ、同9年観測所名は幾寅と変更された。

次に、昭和16年3月に中央気象台幾寅観測所が北緯43度10分、東経142度35分、標高350メートルの位置に設置され、同22年4月まで観測を続けた。

そして昭和33年9月、気温・風向風速・日照・雨量などを自記記録できる総合自記気候観測装置を備えた幾寅丙種観測所が北緯43度9分7秒、東経142度34分4秒、標高350メートルの位置に開設されたが、同49年5月休止に至った。同年9月から雨量と積雪のみの乙種の観測所として同53年3月まで観測を行った。

昭和52年12月にアメダスシステム（地域気象観測業務）の幾寅地域気象観測所が、北緯43度10分、東経142度34分3秒、標高355メートルに設置され、今日に至る。

本町における気象の特徴を昭和40年以降の「観測所気象年報」のデータを中心に述べる。

(1) 気温 年平均気温は5.1度である。月平均の最高は8月で19.5度、最低は2月の氷点下9.2度である。

日最高気温は昭和46年8月6日の34.1度、日最低気温は同57年2月6日の氷点下33.4度を記録する。過去には前者が大正13年7月13日の35.2度、後者が昭和20年2月21日の氷点下36.1度の記録が残る。

内陸の山間部に位置することから、札幌や帯広に比べ全般的にやや低いが、5月から8月にかけて帯広とはほぼ同傾向を示す。月別の平均気温は上川支庁の中でも一番低い。

5月から9月までの農耕期間における積算温度は2200度～2300度と上川支庁の中でももっとも低く、農業に与える影響も大きい。

(2) 降水量 年平均降水量は1078ミリメートルで、夏から秋にかけて100ミリメートル以上を記録する、秋季と冬季に降水量の多い札幌とは異なり、帯広と同傾向を示すが、その量は8月以降は平均して20ミリメートル以上多い。日最大は昭和56年8月5日で、133ミリメートルを記録する。

(3) 風 風は年間を通し北西、南西、西方向からの西よりの風が卓越して吹く。しかし、春から夏にかけては南東の風も多く吹く。

これは東に脊梁となる十勝岳連邦と日高山脈、西に夕張山地が連なり、この間を空知川流域に広がる凹部が開け、東の峡間に十勝へ至る狩勝峠が位置する地形的制約を強く受けることによる。

(4) 雪 雪の平均初日は10月23日、終日は4月27日である。積雪期間は11月下旬から4月末頃までの150日以上と長い。

初雪は大正15年10月11日、終雪は昭和43年5月9日の記録が残る。最深積雪は昭和47年3月1日の241センチメートルがもっとも多い。

図 2-1 月別平均気温 (幾寅)

幾寅は「観測所気象年表」の昭和40年1月から同59年12月のデータの平均である。

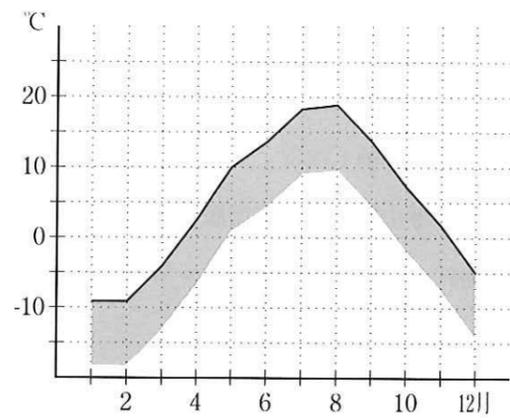
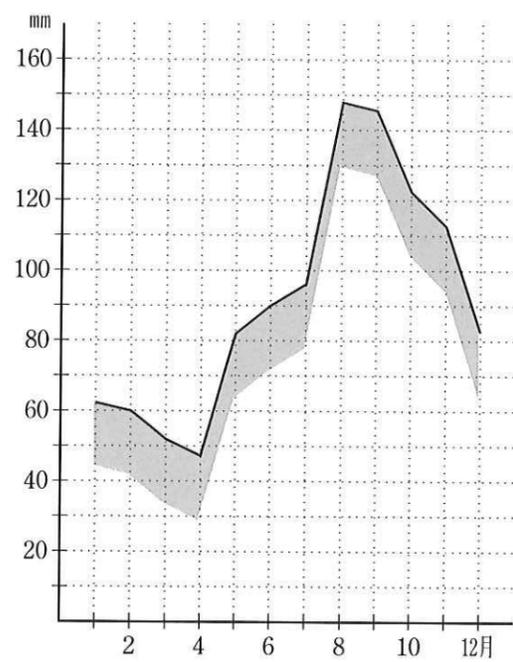
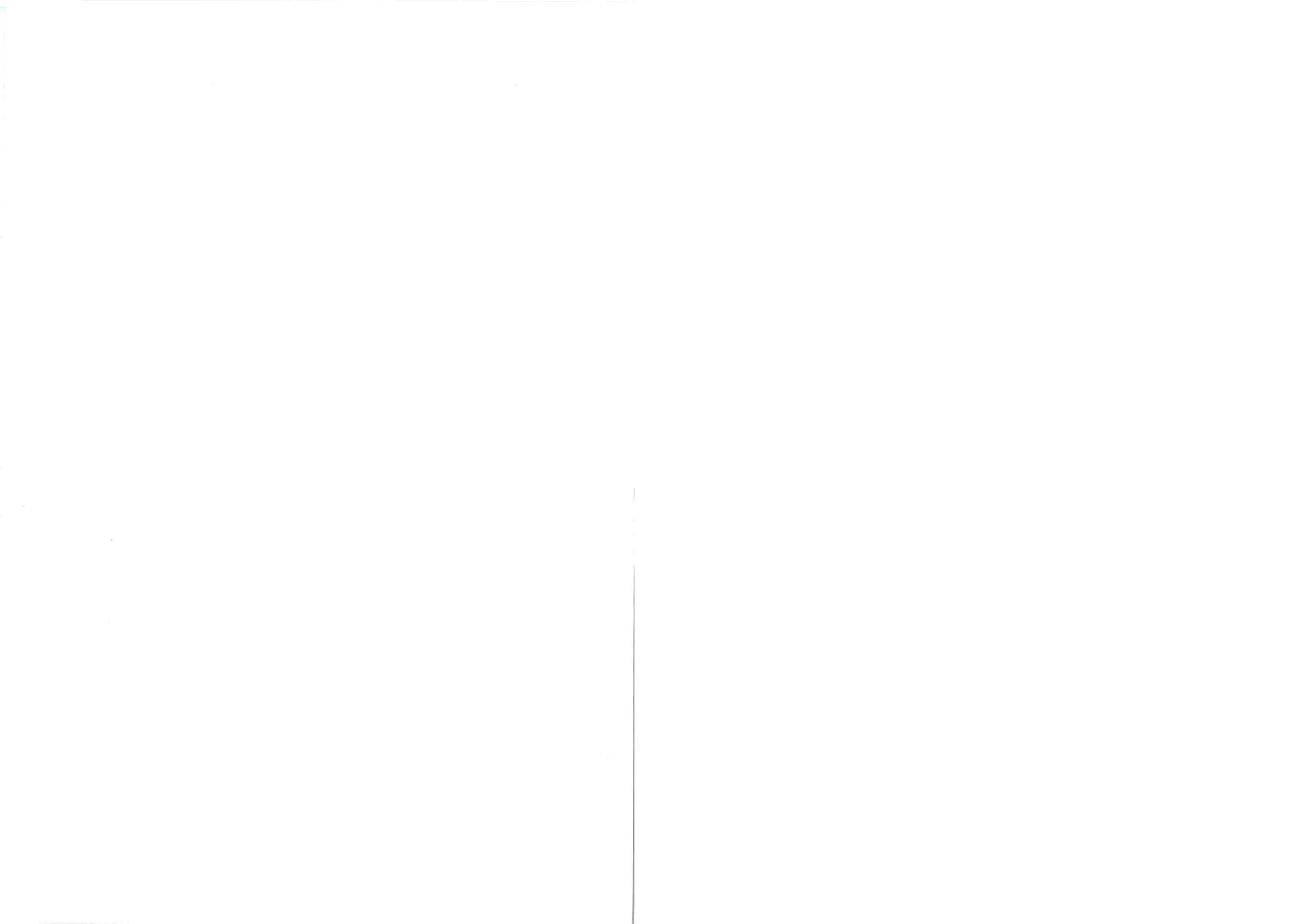


図 2-2 月別平均降水量 (幾寅)

幾寅は「観測所気象年表」の昭和40年1月から同59年12月のデータの平均である。



### 第 3 節 関連計画に関する調査



### 第3節 関連計画に関する調査

#### 3-1 南富良野町総合計画

「南富良野町総合計画」は第1次の「南富良野町総合計画」に続き、昭和58年から平成4年までの10ヵ年計画を計画年次とした「南富良野町新総合計画」を樹立し、その後、平成5年3月に見直しされ同14年を目標年次とした。「南富良野町第3次総合計画」をスタートさせた。

##### (1) 「南富良野町第3次総合計画」と下水道基本計画との関わり

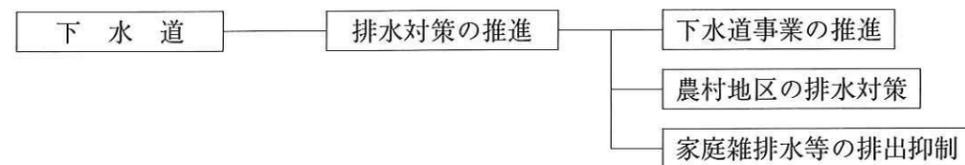
###### a 現状と課題

都市化が進むなかで、南富良野町においても公共下水道の整備が重要な課題になっています。市街地を中心とした下水道事業は終末処理場の建設など長期にわたる期間と多大な経費を必要としますが、町民の清潔で快適な生活環境の向上のために必要な事業であり積極的に推進していかなくてはなりません。また、下水道への町民の加入については設備経費及び維持経費の負担も高額になりますが、下水道への理解を深めるよう働きかけ、加入率の向上をはかっていく必要もあります。なお、公共下水道区域に含まれない農村地区においても都市的生活様式が進んでおり、快適な生活環境整備のために農業集落排水事業の導入や合併処理浄化槽の普及などの各種制度の導入の検討を進めることが課題となっています。

###### b 基本方針

衛生的な都市環境づくりのために公共下水道事業の推進に努めます。また、農村部についても農業集落排水事業の推進などによる生活環境の向上をはかります。

###### c 施策の体系



d 主要施策

①下水道事業の推進

落合岳、かなやま湖周辺など特定環境保全公共下水道事業の計画的な事業の推進に努めていきます。また、町民に対するPR・啓蒙活動を通じて、下水道事業への理解を得ながら普及を図り、加入を積極的に促進していきます。

②農村地区の排水対策

下水道計画に含まれない地区について、農業集落排水事業の導入の検討や合併処理浄化槽の普及を進めていきます。

③家庭雑排水等の排出抑制

水質汚濁の主因である家庭雑排水や畜産排水等の見直しを町民に呼びかけ、水質保全意識の向上をはかります。

④本計画においての「計画人口」は、定住化対策の積極的な推進や、観光・リゾートなどの第3次産業の進展が予想されることから、増加の可能性があるとして判断し、目標年度平成14年度の行政人口を4,000人としている。

3-2 石狩川流域別下水道整備総合計画（以下「流総計画」と言う。）

「流総計画」は、昭和58年に再調査を実施し、現在策定中である。

(1) 「流総計画」とは、昭和45年9月1日石狩川に対して生活環境を保全するうえで維持することが望ましい水質環境基準の類型指定がなされ、この基準達成の施策の一環である下水道の立場として流域全体の水質汚濁の方向、これに伴う各都市の下水道整備のすすめ方等、下水道の基本方針を作成したものである。

(2) 昭和49年に計画された「流総計画」のなかの南富良野町の概要を表3-1に示す。

表3-1 南富良野町の概要

下水道計画面積	45 ha	備考
下水道計画人口	2,000 人	
処理水量（日最大）	1,500 m <sup>3</sup> /日	
処理水質	20 ppm	BOD
下水の放流先	ユクトラシュベツ川	普通河川

### 3-3 土地利用計画

南富良野町の土地利用計画は、平成5年3月に策定された「南富良野町第3次総合計画」の中で土地利用方向と地区別の整備方向が示されている。

土地は町の産業経済、町民の生活と深く結びついた限りある資源であることから美しく住みよいまちづくりを進めるためには、公共の福祉と自然環境の保全、健康で文化的な生活環境の保持を優先的に、長期的な視点に立って、合理的、計画的な土地利用を推進する必要がある、そのための新しい土地利用の方向を明らかにし、新しいまちづくりをはかっていくとされ、以下に示すような地域別方向づけがなされている。

#### (1) 南富良野町第3次総合計画

##### a 都市的市街地地域

都市発展の基盤となる道路、交通整備を推進しながら、これにあわせた産業・サービス機能の集積、業務拠点の整備をはかるとともに、公園・緑地、上下水道、水辺空間の整備などの開発を進め、良好で魅力あふれる市街地整備と生活環境の向上を目指す。

また、都市的な魅力の充実のために景観づくりや住宅、宅地の整備を推進、誘導していく。

##### b 農業集落地域

農用地は優良農地の確保をはかりつつ、基盤整備事業など生活基盤の整備を進め、付加価値の高い農産物の供給体制を整備し、輪作形態の確立により農地利用の効率化をはかるほか、農地の通年利用なども検討する。

##### c 森林地域

森林、林地は町の大きな部分を占めており、植林、保育などの整備を進めるとともに、林道網の整備などを促進して、生産体制の強化をはかる。また、町民や観光客が自然とふれあえる場として森林資源の活用を努める。

d 鉱・工業地域

町の活性化に多面的な効果が期待される工業の振興をはかるため、新規の優良企業の立地を促進するものとし、既成市街地内の住・工の混在化をさけるため、適地への工業移転や集約化をより一層進める。

e 観光・リゾート開発地域

かなやま湖周辺、落合岳、十梨別溪谷などの観光・リゾート開発が予想される地域は、自然環境の保全に十分に配慮しながら、観光施設の集積をはかり、リゾートエリアとしての整備を進める。

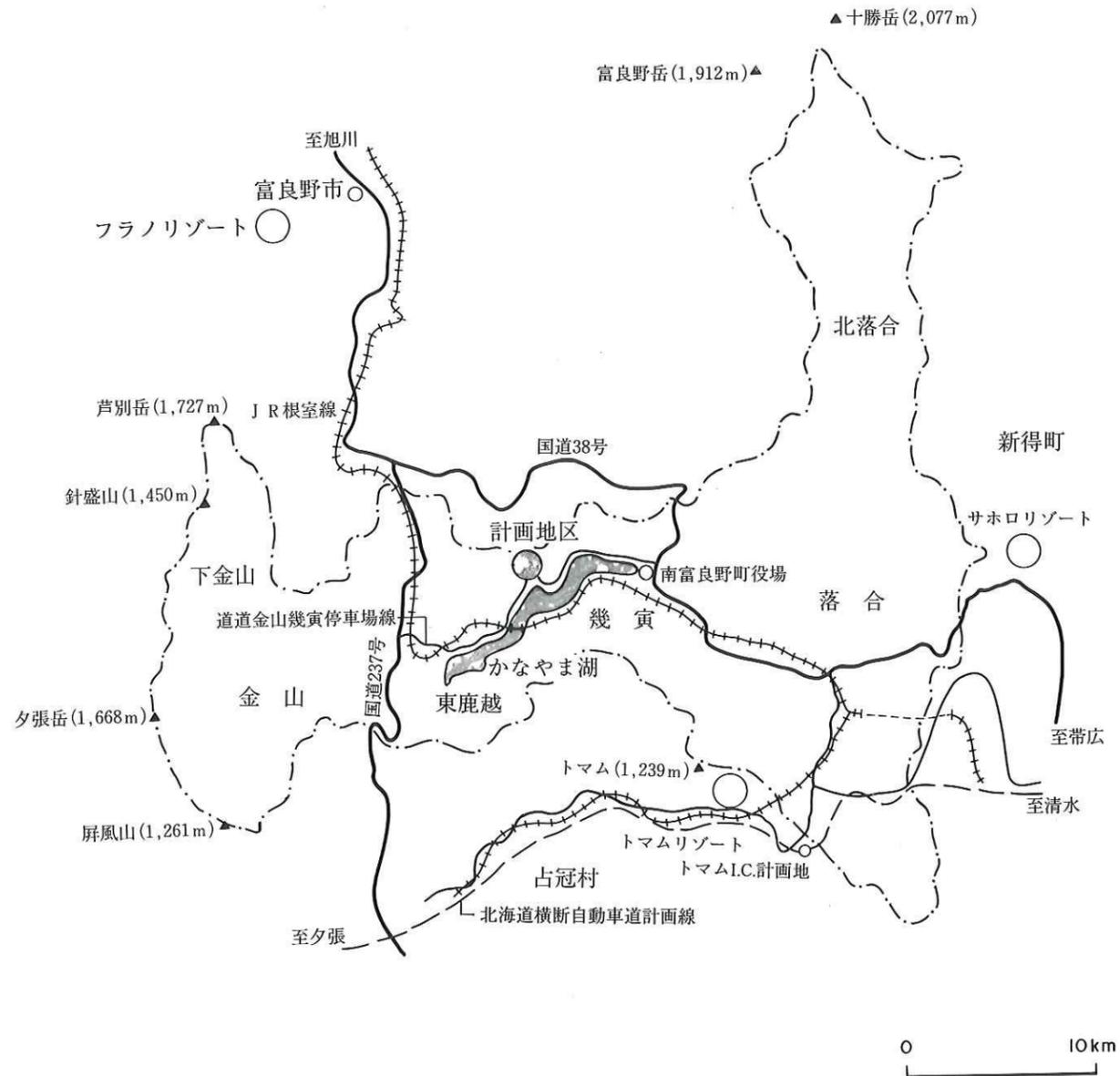
(2) オートビレッジ整備計画

「オートビレッジ計画調査・社団法人日本観光協会」および「地域に開かれたダム・南富良野町」の計画書より。

オートビレッジの中核的施設群計画地区は、南富良野町の中央部、町のシンボルであるかなやま湖右岸に面する町観光の中心施設地区—かなやま湖森林公園、かなやま湖保養センター、かなやま湖畔キャンプ場、鹿越園地、及びその後背地（南東向き緩斜面の森林）である。（標高355 m～400 m）

富良野市方面より、国道237号を経て当町中心部幾寅地区へ向かう道道金山幾寅停車場線で直接到達でき、富良野市から38km、40分、幾寅地区から9 km、10分の距離にある。

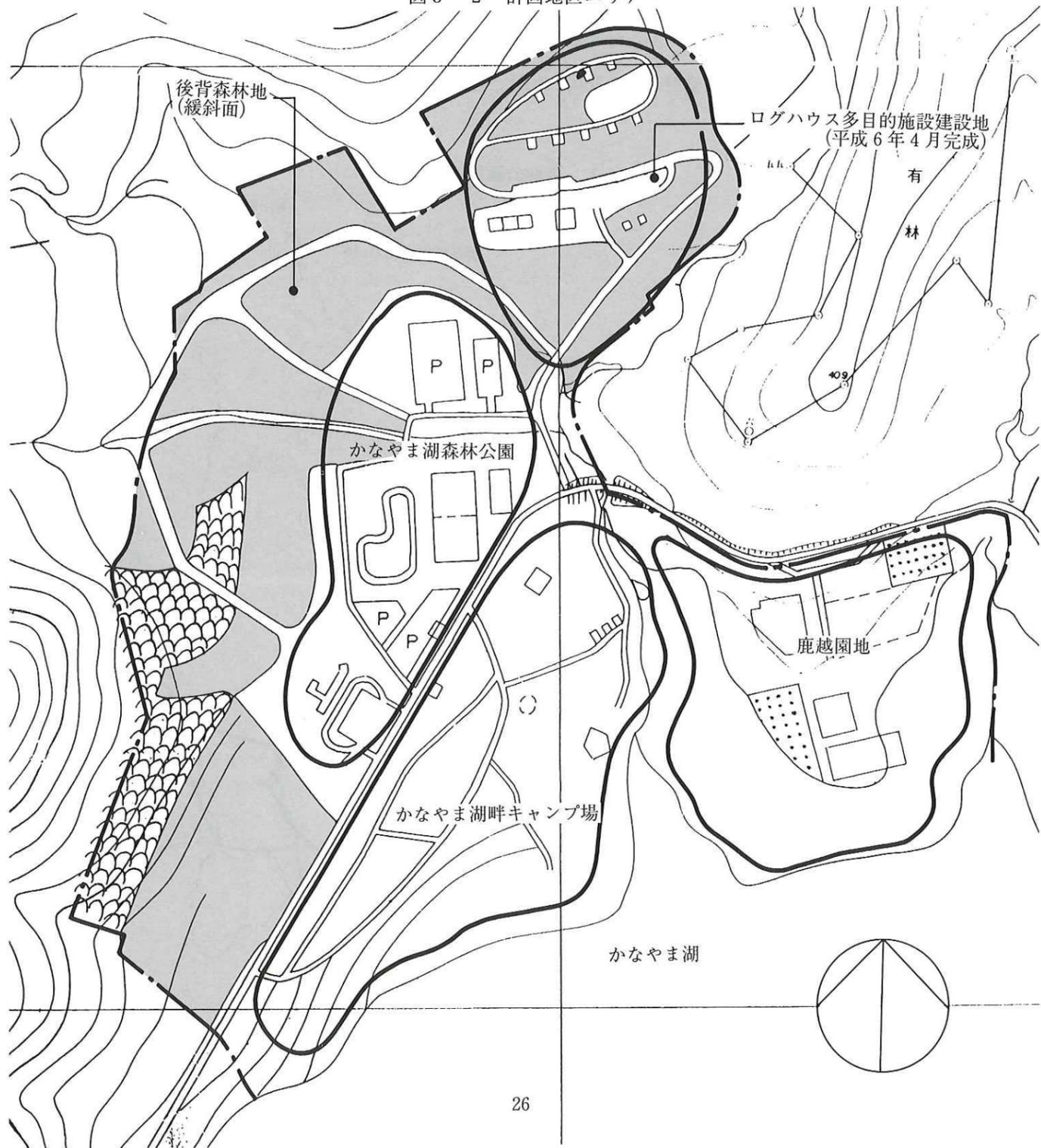
図3-1 森林公園地区の位置



a 面積（中核的施設群）

- ・ 中核的施設群計画地区は、町観光の要となっている、かなやま湖森林公園とその後背森林地、ログハウス多目的施設建設地、道道金山幾寅停車場線をはさんで、かなやま湖畔キャンプ場、鹿越園地を含む合計56.7haである。

図3-2 計画地区エリア



## b 土地所有等（中核的施設群）

### b-1. 土地利用状況

- ・ 現況土地利用状況は、図3-3に示すように、当地区へのアプローチ道路である道道金山幾寅停車場線をはさんで概ね南北に、森林公園のある山側（標高約335m～400m）と、かなやま湖畔側に（満水位標高345m）分けられる。
- ・ 緩傾斜面地の山側は、かなやま湖保養センターを核として、バンガローやテニスコート、フィールドアスレチック、ゴーカートコース、ゲートボールコートのスポーツレクリエーションの楽しめるかなやま湖森林公園がある。
- ・ この森林公園を囲む後背森林地は、東から南向きの緩傾斜（概ね15%～20%）の主にカラ松植林地で2本の浅い沢で、地形的に分けられる。
- ・ 沢で分けられる最も北側のカラ松植林地には、ログハウス多目的施設が建設され（平成6年4月完成）、ログハウスのホテル、レストラン、管理棟とコテージからなり道道からアプローチ道路の新設が成されるなど当地区の新たな目玉となるかなりの集客の期待ができる施設である。
- ・ 湖畔側は、昭和43年に開設された町立かなやま湖畔キャンプ場と、その東側に、ラベンダー、ポピーやポプラなどの鹿越園地として利用されている。
- ・ キャンプ場は、最大700張の湖畔の広がりを生かした明るい広場サイトで、炊事場、便所、コンセルリンク（ファイアーサークル）の他、湖面にそそぐ沢を利用したじゃぶじゃぶ池などが整備され、夏を中心ににぎわっている。
- ・ その一角に、カヌー研修合宿のできる、かなやま湖スポーツ研修センターがあり、湖面に展開されるカヌー合宿を中心に利用されている。
- ・ また、湖畔では、町の様々なイベント、祭りの会場として利用されており、駐車施設が地区内に確保されている。
- ・ 各施設の詳細は、表3-3に示す。
- ・ 尚、当地区各施設の運営管理は第3セクター(株)南富良野町振興公社が行っており、建設中のログハウス多目的施設も同公社により管理運営が成されるべく準備されている。

### b-2 土地所有状況

- ・ 当計画地区の土地所有は、森林公園のある道道より山側については、全て町所有地、（約31.4ha）となっている。湖畔側のキャンプ場、鹿越園地は、北海道開発局管轄の河川敷（約23.8ha）であり、ダム周辺環境整備事業によりキャンプ場付帯施設、園地、人工砂浜等基盤整備が行われている。

- ・ 道道金山幾寅停車場線は全て道有地（約1.5ha）である。

#### b-3 土地利用規制

- ・ 当計画地区の中でカラ松の植林を中心とした後背の森林地は、森林法による規制区域となっており、1ha以上の伐開については、林地開発許可が必要となる。
- ・ 当計画において、主な施設整備が想定されるため開発許可を得る必要がある。
- ・ 河川敷部分は、キャンプ場などダム周辺環境整備事業により整備され、今後も基盤整備の新たな展開が図られる区域である。
- ・ 当オートビレッジの中核的施設群地区としてこれらを含めた一体となった施設整備が前提となり、それぞれの整備区域を明確にし、相互に補完しあいながらまとめていくことが必要である。

図3-3 土地利用現況図

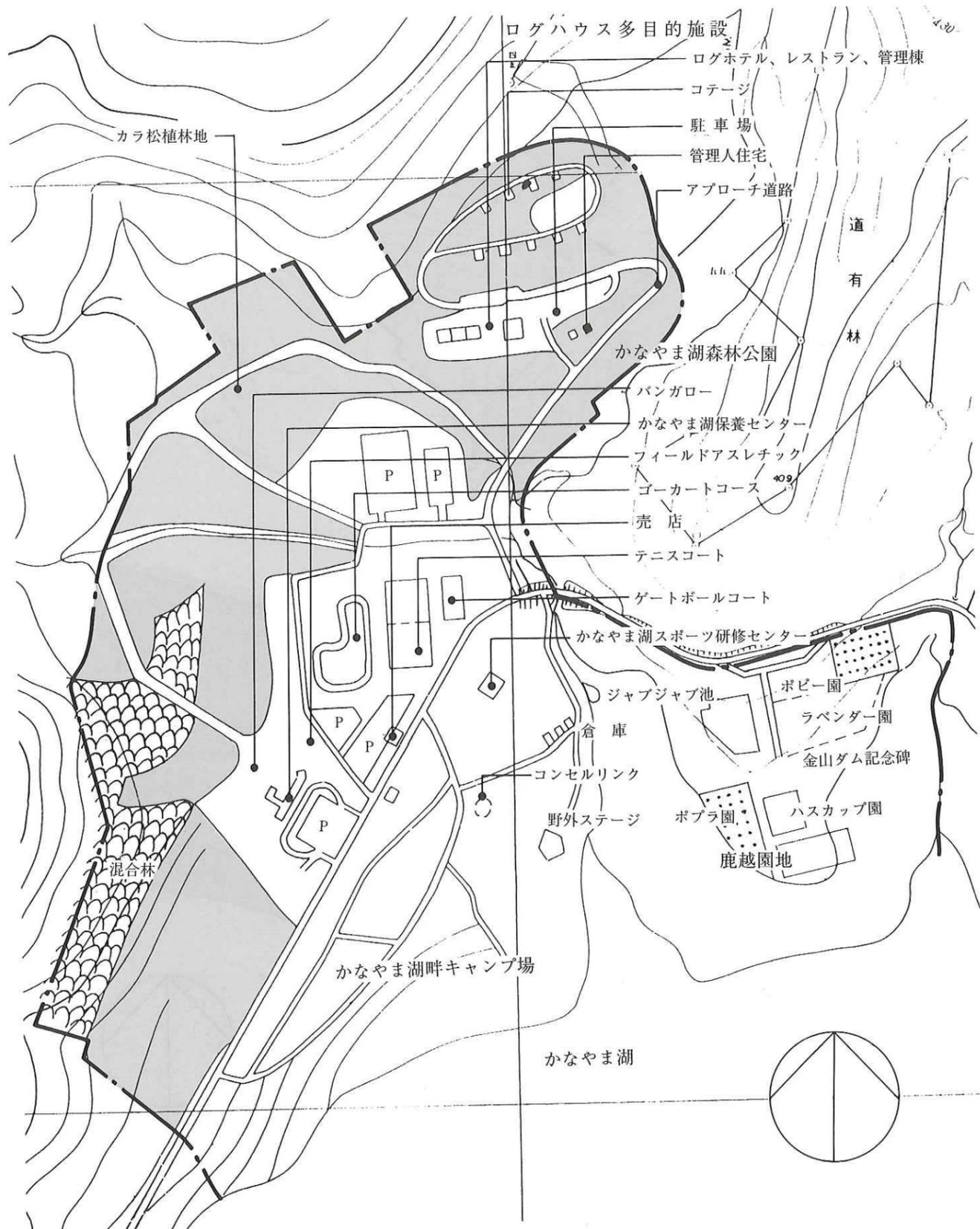
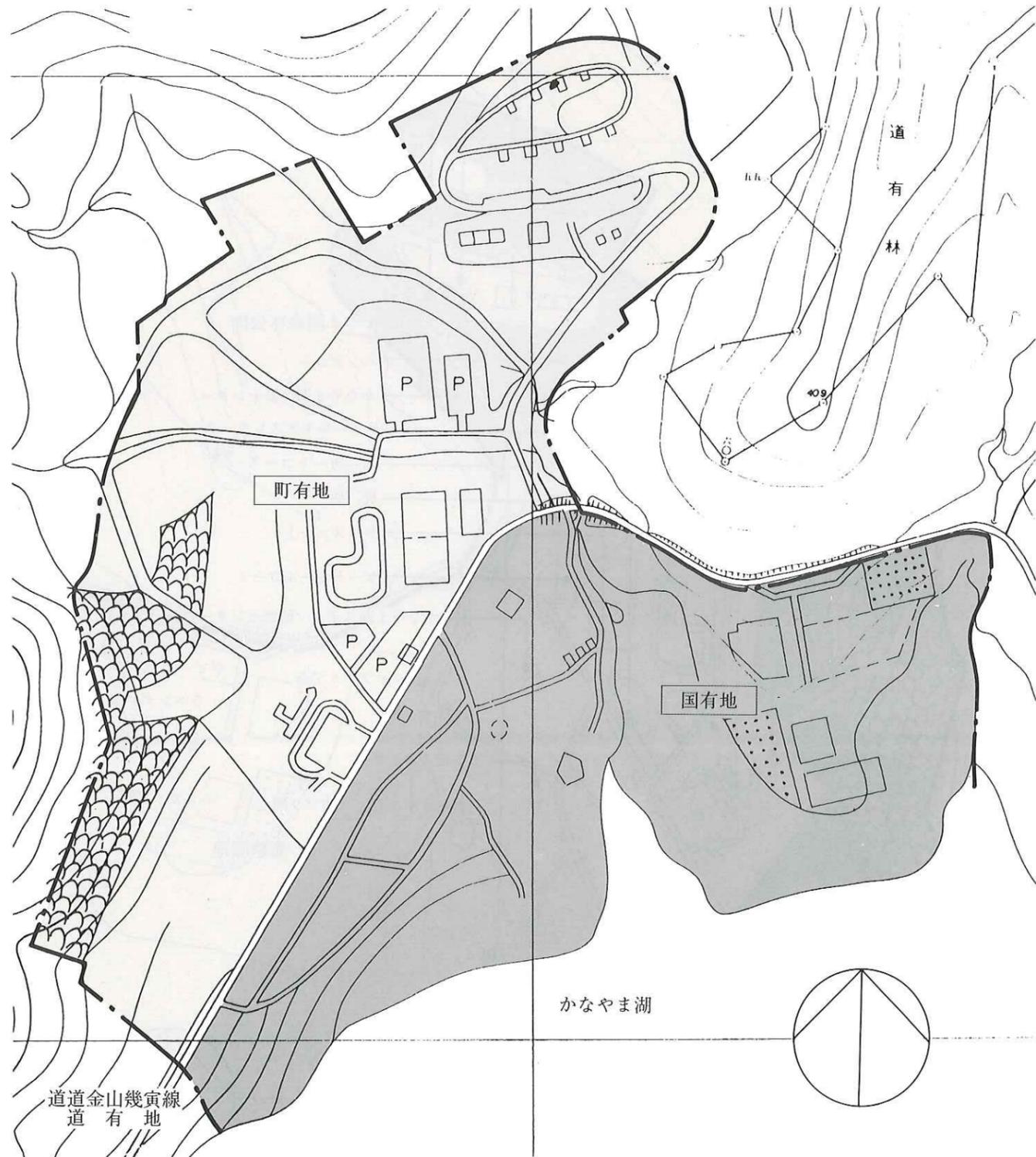


图3-4 土地所有图



C 森林公園地区の現況及び将来施設

表3-2 各施設の収容人数と供用開始年

施設名		収容人数(人)	供用開始年	
現況	保養センター	38	昭和58年	
	バンガロー	54	昭和58年	
	湖畔キャンプ場	2,800	昭和45年	
	スポーツ研修センター	30	昭和61年	
将来	ログホテル	21	平成6年	
	コテージ	13	平成6年	
		41	平成7年	
	オートキャンプサイト(1)	スタンダードサイト	200	平成11年
		キャンピングカーサイト	40	
		常設トレーラーサイト	20	
	オートキャンプサイト(2)	スタンダードサイト	200	平成11年
	オートキャンプサイト(3)	スタンダードサイト	120	
		キャンピングカーサイト	40	
		常設トレーラーサイト	20	
	多目的アリーナ	—		
	ホビーの館	—		
	ハーブの館	—		
ゲルマンの館	—			
計	現況	2,922		
	将来	715		
	全体	3,637		

d 中核的施設群の整備計画

d-1. ゾーニング

- ・ 計画地区内を〈オートビレッジ施設整備エリア〉と〈レイクサイドエリア〉に区分した上で、それぞれセンターゾーン、ログホテルゾーン、キャンピングゾーン（かなやま湖オートキャンプ場）、ふれあいゾーン、レイクサイドゾーンの5つのゾーンに区分される。
- ・ ゾーン別の各施設概要を表3-3に示す。

図3-5 ゾーニング図

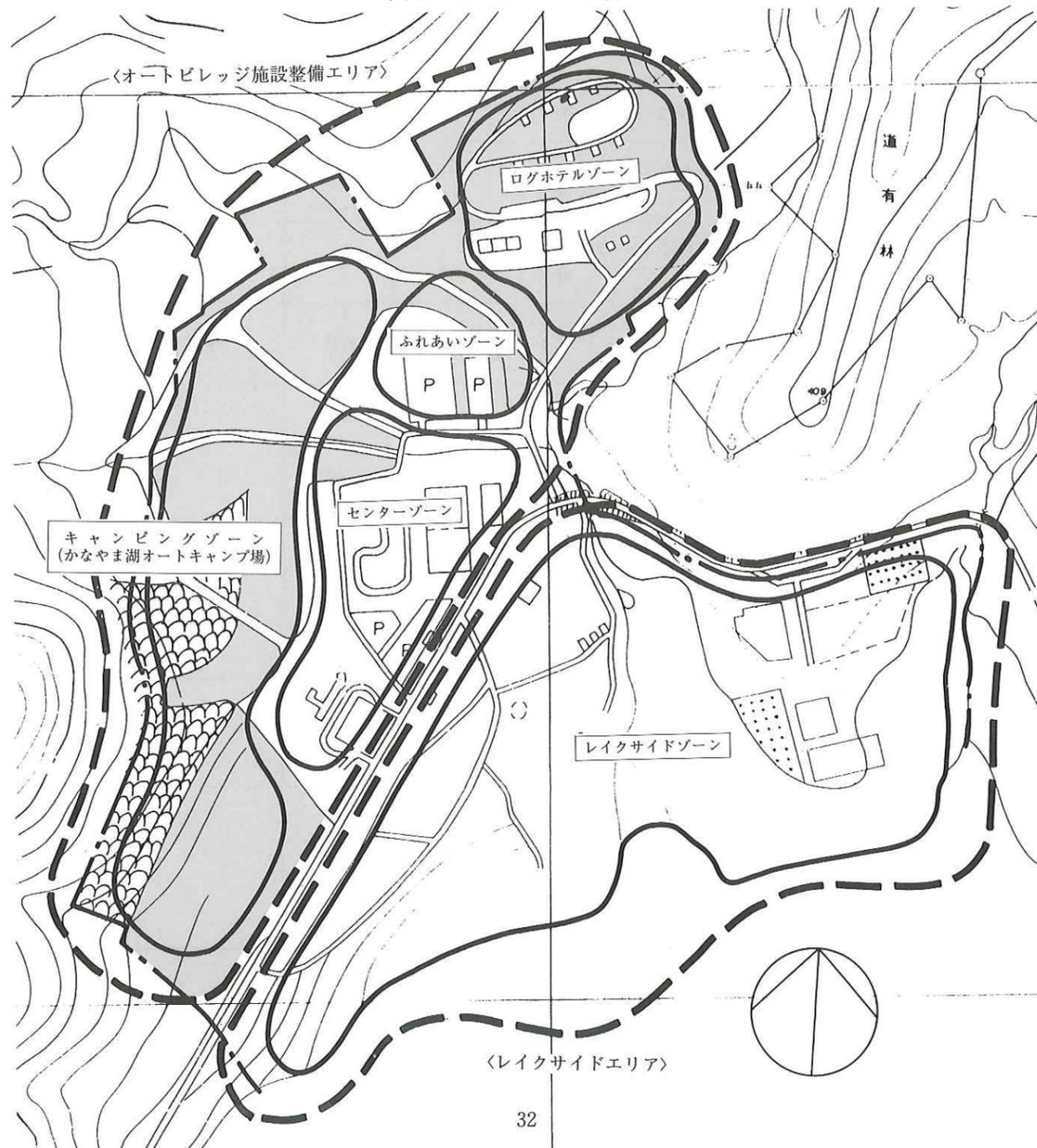
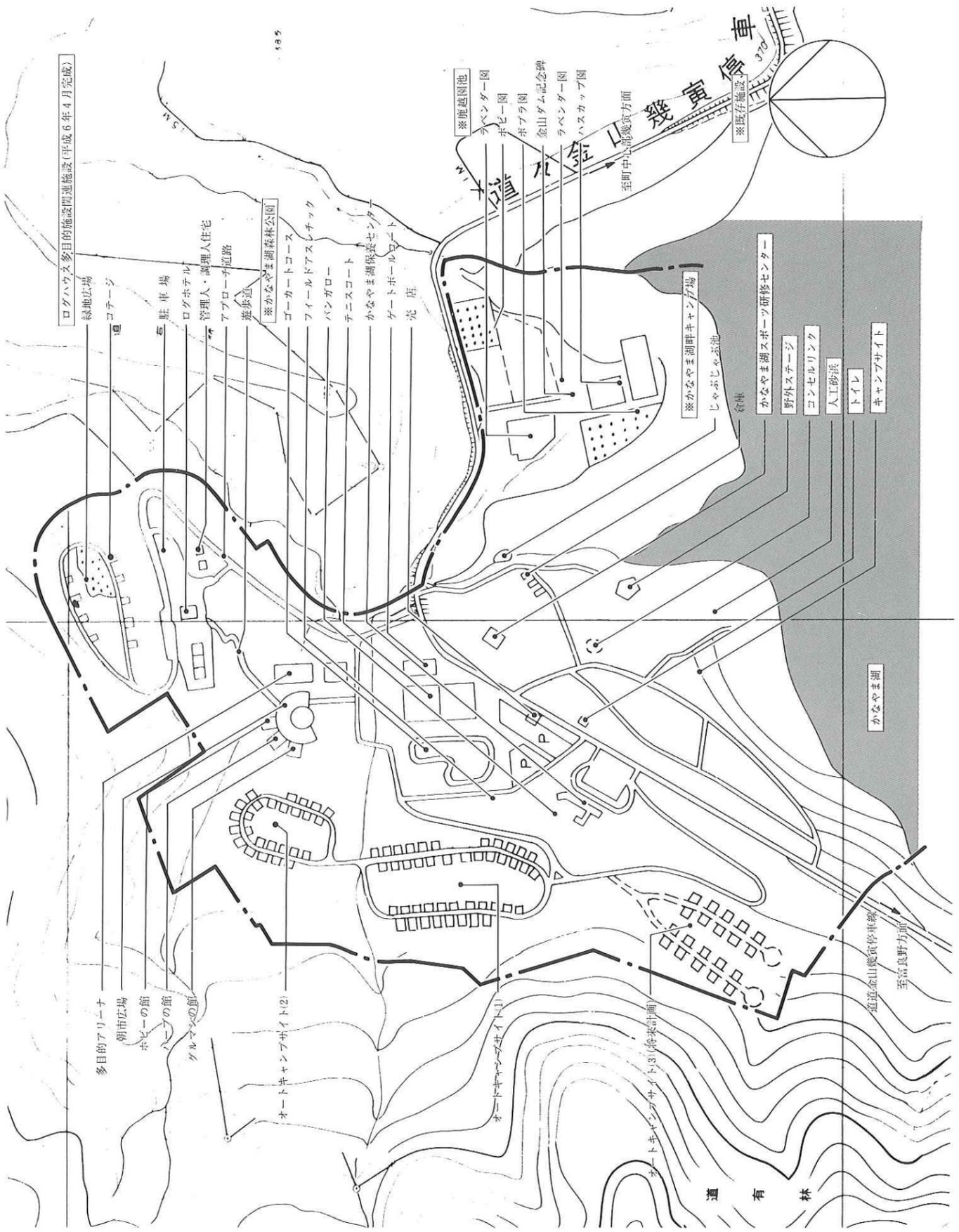


表3-3 施設概要

※既存施設

ゾーン名	施設名	施設内容
<p>〈オートビレッジ施設整備エリア〉</p> <p>センターゾーン</p>	<p>※かなやま湖森林公園 かなやま湖保護センター</p> <p>バンガロー</p> <p>フィールドアスレチック ゴーカートコース テニスコート ゲートボールコート 駐車場 ・シンボルゲート ※売店 ※遊歩道</p>	<p>R C造2階建延1,008㎡宿泊(38人収容)、大研修室(50人収容)、中研修室4室、小研修室、ミーティングルーム、休憩室、ラウンジホール、レストラン(32人収容)、民芸品コーナー、管理事務所、便所、浴室(ラドン装置付)、管理人住居、駐車場(50名)</p> <p>からまつハウス(6人用)7棟、マッシュルーム(4人用)3棟</p> <p>13ポイント 延428m、カート5台、管理棟 4面、夜間照明付 2面 合計4ヶ所 アプローチ道路入口に設置 道道沿い。食料品等。午前7時～午後10時まで営業。</p>
ログホテルゾーン	<p>・ログハウス多目的施設(ログホテル)</p> <p>・コテージ</p> <p>・駐車場 ・緑地広場 ・管理人・調理人住宅 ・遊歩道</p>	<p>管理棟(R C造2階建430.33㎡) 宿泊棟(木造丸太組構造2階建598.17㎡)2人用6室、3人用3室合計21人(最大33人)収容、浴室、ベッド付 レストラン棟(木造丸太組構造平屋建202.04㎡)70人収容、ログホテル平成6年4月完成 木造丸太組構造2階建 5人用101㎡(6棟)、8人用128㎡(3棟)、合計54人収容、浴室、厨房、ベッド付 このうち2棟は平成6年4月完成、7棟は平成7年度完成</p> <p>2,400㎡ 約440㎡ 2戸67㎡ 透水性舗装延130m(W=1.5m)、一部ステップ付</p>
<p>キャンピングゾーン(かなやま湖オートキャンプ場)</p>	<p>・管理棟</p> <p>・遮断式ゲート</p> <p>・プロムナード広場</p> <p>・オートキャンプサイト(1)スタンダードサイト</p> <p>キャンピングカーサイト</p> <p>常設トレーラーサイト</p>	<p>R C造+木造平屋建300㎡ 管理事務室(ゲート管理、予約受付窓口、インフォメーションレンタル窓口)、集会室、シャワー室、便所、休憩ラウンジ、サロン、ミニスーパー、コインランドリー、レンタル倉庫(MTB、スポーツカイト等)、宿直室、静養医務室、駐車場(アスファルト舗装300㎡) 管理棟前に設置。入出場管理ゲート。</p> <p>透水性ブロックペイプ1,000㎡、花木植栽。 管理棟前広場及びアプローチ道路沿い。</p> <p>50サイト、120㎡/区画、芝生サイト、駐車スペース(透水性ブロックペイプ)、A C電源(2KW)付</p> <p>10サイト、150㎡/区画、芝生サイト、駐車スペース(透水性ブロックペイプ)、給排水設備・A C電源(5KW)付</p> <p>5サイト、150㎡/区画、芝生サイト、駐車スペース(透水性ブロックペイプ)、常設トレーラー・木製デッキ付 給排水設備・A C電源(5KW)付</p>

ゾーン名	施設名	施設内容
キャンピングゾーン (かなやま湖オートキャンプ場)	洗面・便所棟 炊事棟 キャンパー広場 ・オートキャンプサイト(2) スタンダードサイト 洗面・便所棟 炊事棟 キャンパー広場 ・オートキャンプサイト(3) スタンダードサイト キャンピングカーサイト 常設トレーラーサイト 洗面・便所棟 炊事棟 キャンパー広場	R C造+木造平屋建35㎡、2棟、洗面所、便所 R C造+木造平屋建25㎡、2棟、炊事場(洗い場) 芝生広場2,400㎡、遊具  50サイト、以下オートキャンプサイト(1)と同じ R C造+木造平屋建35㎡、2棟、洗面所、便所 R C造+木造平屋建25㎡、2棟、炊事場(洗い場) 芝生広場2,000㎡、遊具 〔将来計画〕 30サイト、以下オートキャンプサイト(1)と同じ 10サイト、以下オートキャンプサイト(1)と同じ 5サイト、以下オートキャンプサイト(1)と同じ R C造+木造平屋建35㎡、1棟、洗面所、便所 R C造+木造平屋建25㎡、1棟、炊事場(洗い場) 芝生広場1,000㎡、遊具
ふれあいゾーン	・多目的アリーナ  ・ホビーの館  ・ハーブの館  ・グルマンの館  ・朝市広場  ・ハーブガルテン  ・吊橋 ・遊歩道	R C造+木造、S造トラス、2,550㎡ 屋内スポーツ施設：テニス、バレー、バスケット、巨大遊具等 屋内プール：レクリエーションプール(遠浅式)、ジャグジー R C造+木造平屋建100㎡、チブ(カヌー)、カラコロ、ふくろうなど木工、木彫のクラフト工房。 R C造+木造平屋建100㎡、ポプリ、ドライフラワーなどラベンダーを中心にハーブクラフト工房。 R C造+木造平屋建100㎡、乳製品、野菜、ソーセージ等くんせいなど地域の農畜産物加工、調理実習。 ホビーの館、ハーブの館、グルマンの館の中心、多目的広場・透水性ブロックペイブ(3,000㎡)、花木植栽。 ラベンダーをはじめ、種々のハーブを栽培(2,400㎡) ハーブクラフトや調理材料などに利用。 木造延長20m 透水性舗装、延70m(W=1.5m)
レイクサイドエリア  レイクサイドゾーン	※かなやま湖畔キャンプ場 キャンプサイト 管理事務所 トイレ 水飲場 駐車場 卓ベンチ コンセルリンク  その他 ※かなやま湖スポーツ研修センター  ※鹿越園地	広場サイト(芝生サイト)、合計700張(2,800人収容) 1棟 3棟(内2棟水洗) 7ヶ所 合計500台収容(一部未舗装) 10卓  ファイアーサークル じゃぶじゃぶ池、野外ステージ、もみじ橋、夜間照明(10基)、人工砂浜 S造2階建1,008㎡、カヌー研修合宿所、大会議室(兼トレーニング室)、研修室4室(約30人宿泊収容)、艇庫、シャワー室、貸ロッカー、便所、管理事務所、調理室、艇庫(3棟) ラベンダー園、ポピー園、ハスカップ園、ポプラ園、果樹園、金山ダム記念碑



(3) 土地利用計画（用途地域）

土地利用計画は現状と将来の動向を踏まえ、かつ将来目標、整備課題を勘案し立案されている。

表3-4、表3-5、表3-6に南富良野町幾寅地区、東鹿越地区、森林公園地区の土地利用概要を示す。

表3-4 南富良野町幾寅地区の土地利用概要

	面積 (ha)	構成比 (%)
住居系地域	47.9	50.4
商業系地域	6.1	6.4
工業系地域	8.6	9.1
公共用地	27.1	28.5
緑地 (公園)	5.3	5.6
合計	95.0	100.0

表3-5 東鹿越地区の土地利用概要

	面積 (ha)	構成比 (%)
住居系地域	10.0	45.5
工業系地域	12.0	54.5
合計	22.0	100.0

表3-6 森林公園の土地利用概要

	面積 (ha)	構成比 (%)
緑地	55.0	100.0

(4) 用途地域の設定

南富良野町は、法で定める都市計画（用途地域）はないが、「土地利用計画」を参考に、概ね10年後の市街化想定を行い用途地域を設定した。

表3-7に用途地域別の面積を示す。

表3-7 用途地域別面積

	住居系地域	商業系地域	工業系地域	公共用地	緑地 (公園)	合計
想定区域面積	57.9ha	6.1ha	20.6ha	27.1ha	60.3ha	172.0ha

図3-6 幾寅地区の用途別土地利用計画

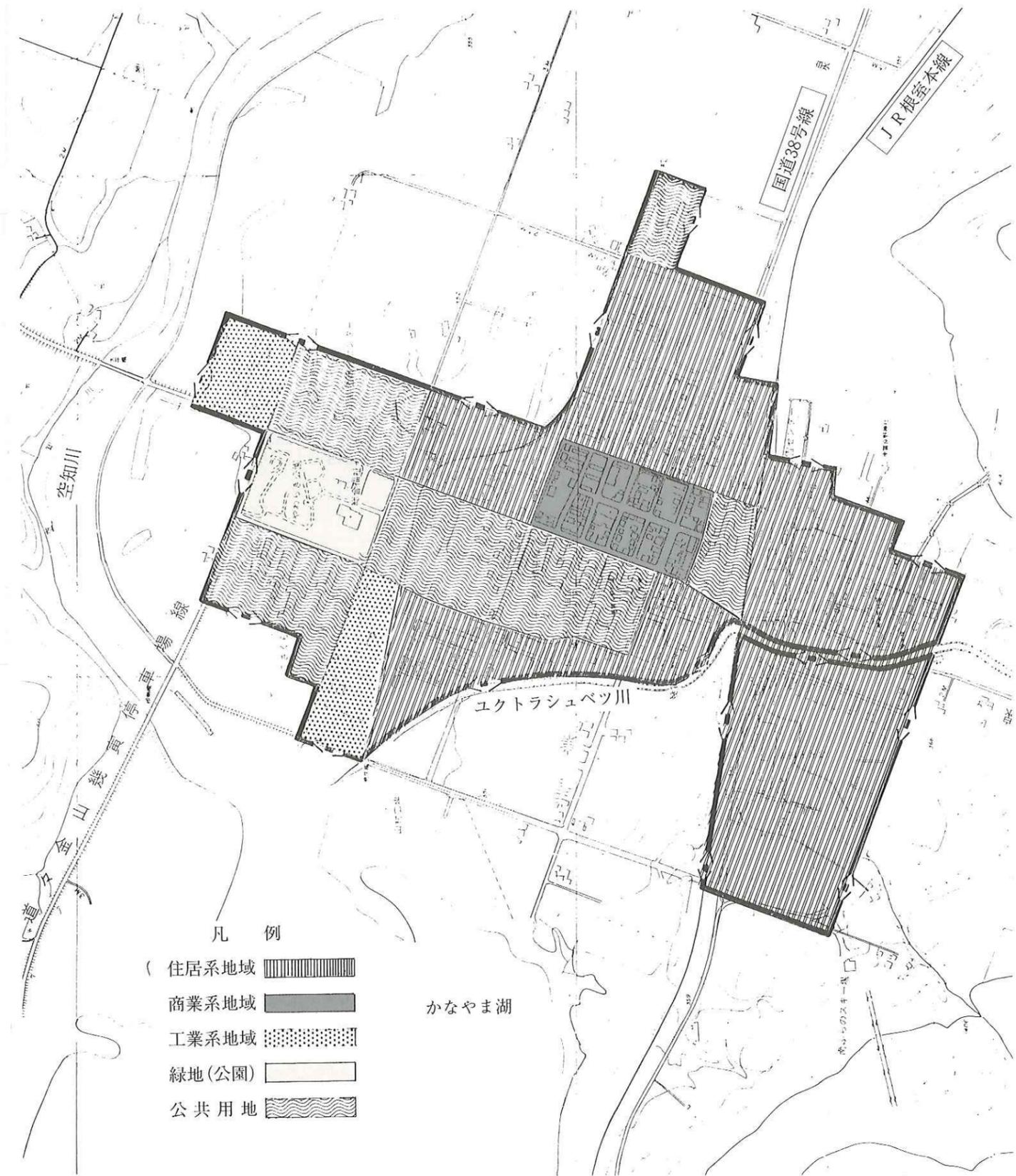


図3-7 東鹿越地区の用途別土地利用計画

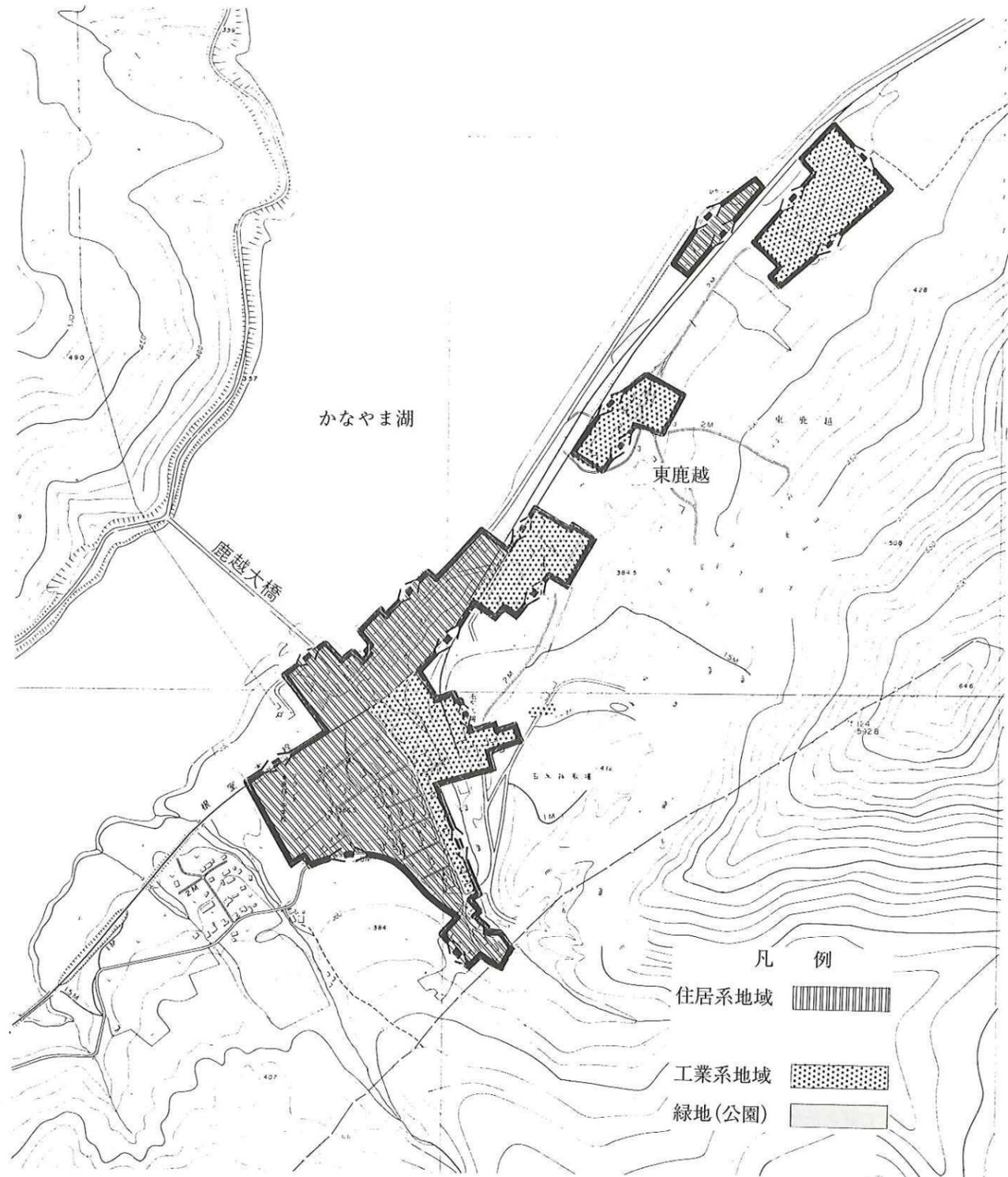
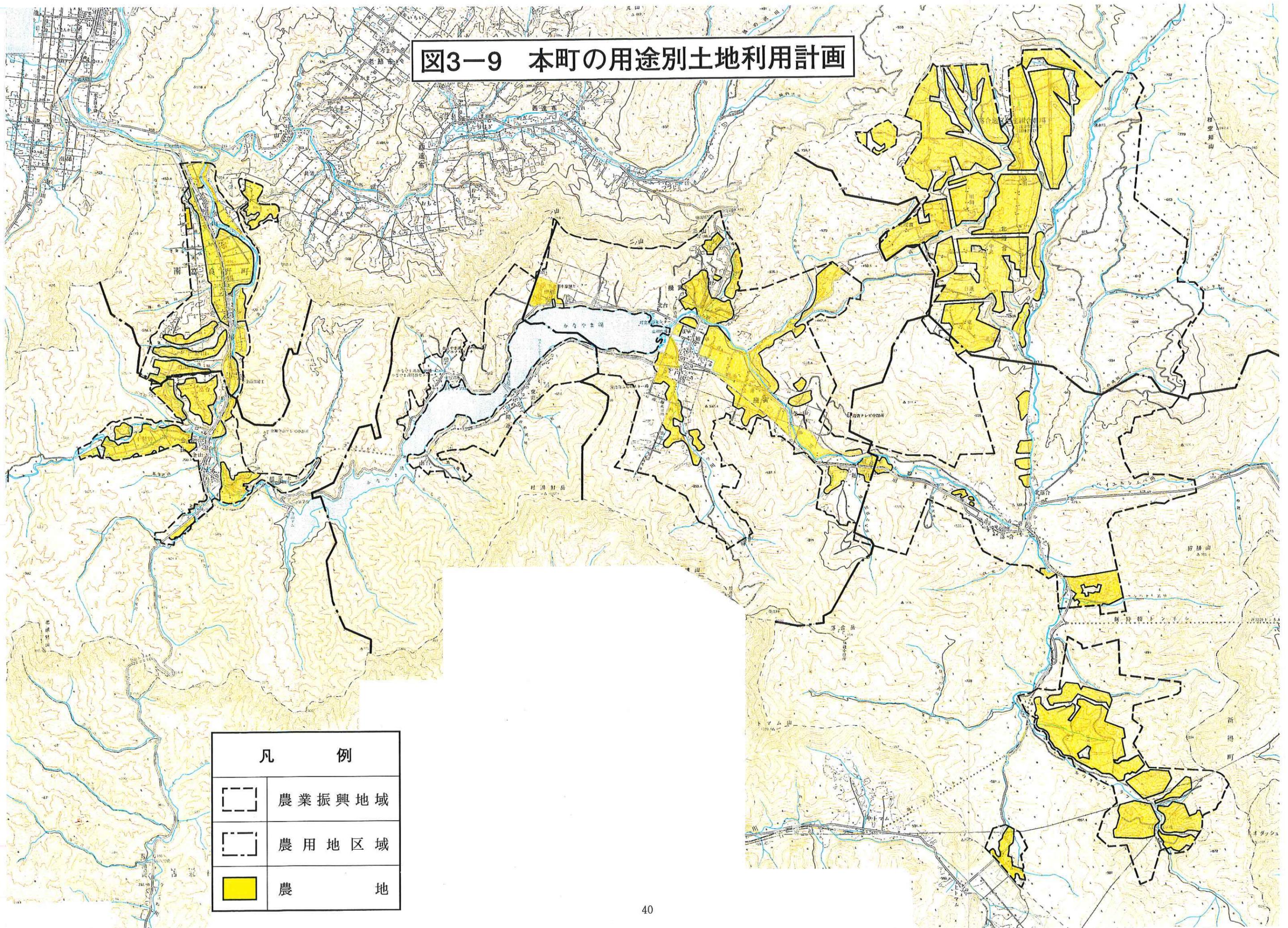


図3-8 森林公園地区の用途別土地利用計画





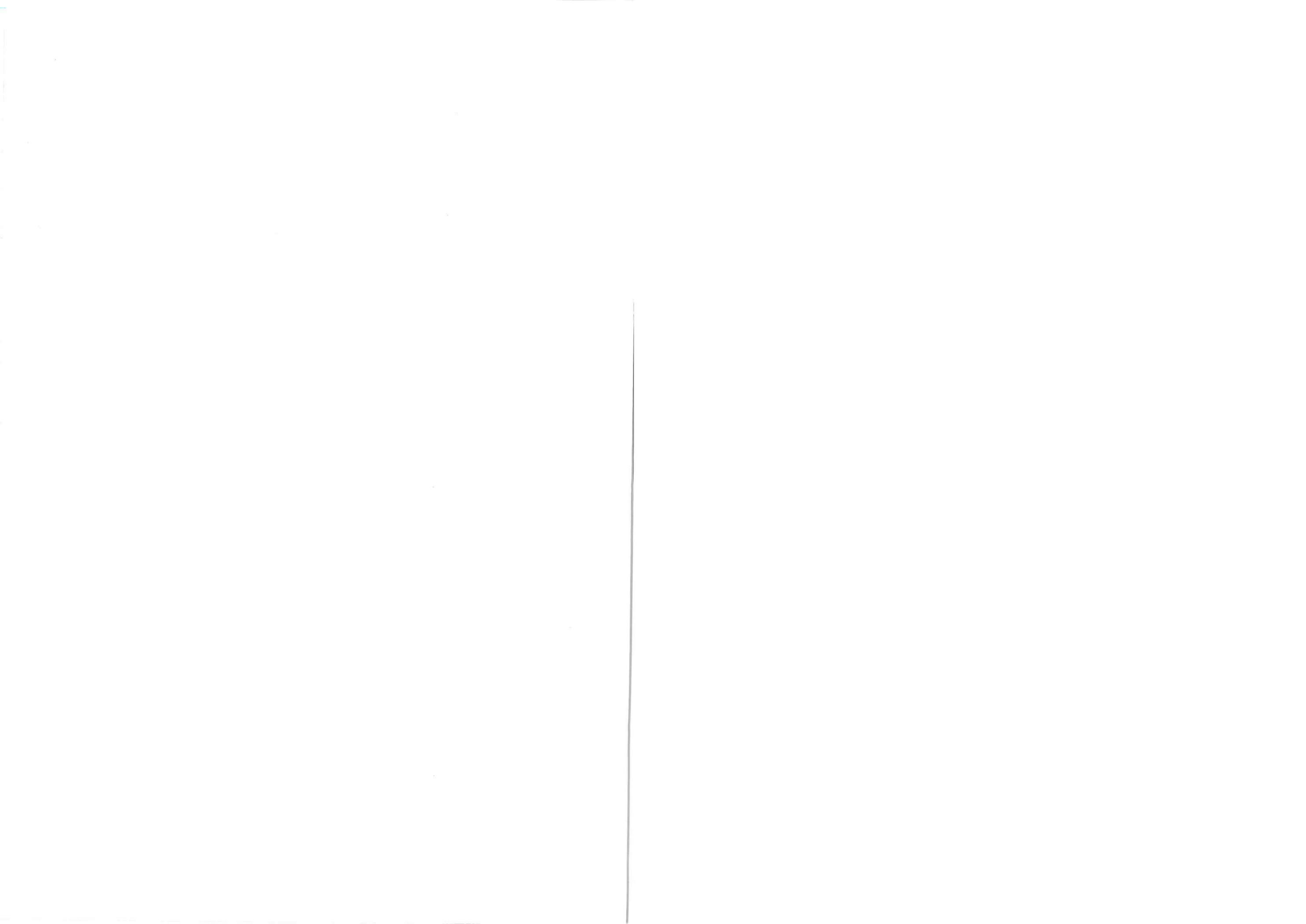
図3-9 本町の用途別土地利用計画



凡 例	
	農業振興地域
	農用地区域
	農 地



第 4 節 人 口



## 第4節 人口

### 4-1 行政人口の推移

南富良野町の人口は近年減少傾向にあり、昭和40年の国勢調査人口11,029人をピークに昭和60年の国勢調査では3,976人、平成3年には3,578人となっているが現在はほぼ横ばいで推移している。

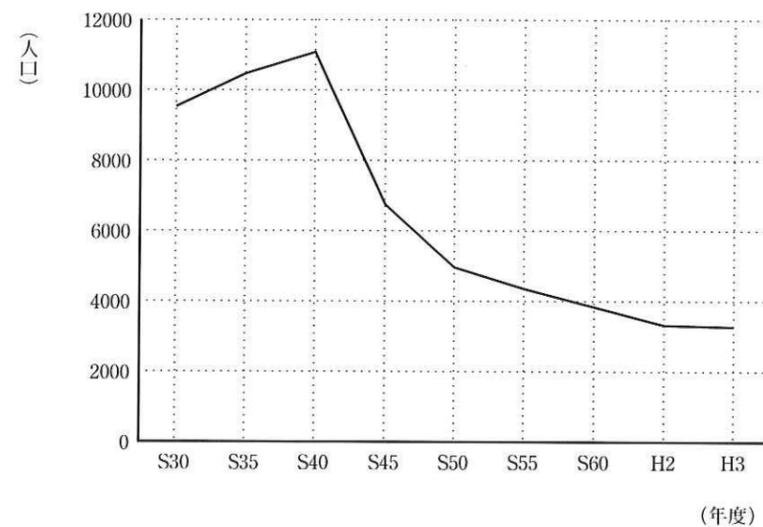
以下、表4-1に南富良野町の世帯と人口推移を示す。

表4-1 人口、世帯数、一世帯当人数の推移

年度	人口	世帯数	一世帯当人数
昭和30年度	9,615 人	1,856 世帯	5.2 人/世帯
昭和35年度	10,322	2,173	4.8
昭和40年度	11,029	2,490	4.4
昭和45年度	6,868	1,947	3.5
昭和50年度	5,136	1,646	3.1
昭和55年度	4,530	1,630	2.8
昭和60年度	3,976	1,481	2.7
平成2年度	3,650	1,436	2.5
平成3年度	3,578	1,333	2.7

※平成2年まで国勢調査。平成3年は8月末現在

図4-2 人口の推移



#### 4-2 就業人口の推移

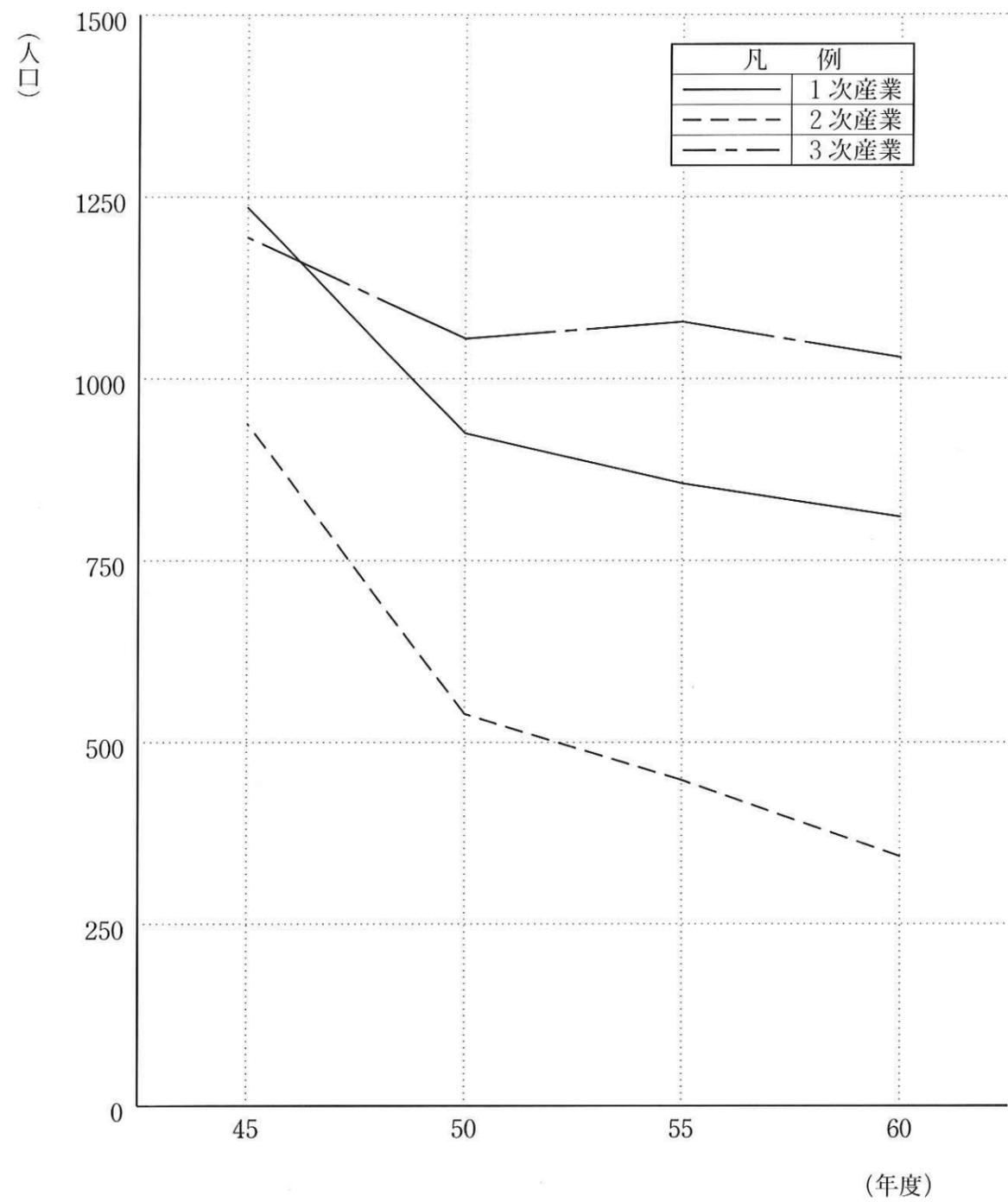
産業別就業人口の推移では2次産業就業者数の構成比が減少傾向にあるが、主たる農業は23%とやや増加し、3次産業は47%と増加しているのが特徴である。

表4-3に産業別就業者数の推移を示す。

表4-3 産業別就業者数の推移

区分 産業別		昭和45年			昭和50年			昭和55年			昭和60年		
		就業者数	構成比	道構成比									
総数		3,367	100	100	2,519	100	100	2,382	100	100	2,182	100	100
1 次 産 業	農 業	713	21.2	15.8	505	20.0	11.7	497	20.9	9.8	508	23.3	9.5
	林業・狩猟業	522	15.5	1.6	419	16.6	1.3	359	15.0	1.1	301	13.8	1.0
	漁業・水産養殖業	—	—	3.6	1	0.1	3.1	—	—	2.7	1	0.1	2.5
	小 計	1,235	36.7	21.0	925	36.7	16.1	856	35.9	13.6	810	37.2	13.0
2 次 産 業	鉱 業	121	3.6	2.2	132	5.2	1.3	150	6.3	1.1	31	1.4	0.8
	建 設 業	468	13.9	10.9	225	8.9	12.4	190	8.0	13.4	126	5.8	12.7
	製 造 業	349	10.4	12.4	182	7.3	12.3	108	4.5	11.0	186	8.5	10.7
	小 計	938	27.9	25.5	539	21.4	26.0	448	18.8	25.5	343	15.7	24.2
3 次 産 業	卸・小売業	317	9.4	20.3	311	12.3	22.2	352	14.8	23.4	326	14.9	24.5
	金融業・保険業	25	0.7	1.9	23	0.9	2.3	21	0.9	2.6	19	0.9	2.9
	不 動 産 業	—	—	0.6	—	—	0.8	—	—	0.8	—	—	0.8
	運搬・通信業	336	10.0	7.9	271	10.8	7.9	225	9.4	7.8	150	6.9	7.6
	電気ガス水道業	14	0.4	0.5	18	0.7	0.6	4	0.2	0.6	9	0.4	0.6
	サービス業	414	12.3	17.1	299	11.9	18.4	308	12.9	20.2	400	18.3	20.6
	公 務	88	2.6	5.2	133	5.3	5.7	168	7.1	5.5	125	5.7	5.8
	小 計	1,194	35.4	53.5	1,055	41.9	57.9	1,078	45.3	60.9	1,029	47.1	62.8

図4-4 産業別就業者数の推移



#### 4-3 観光人口

近年、生活や所得水準の向上、週休2日制の普及、労働時間の短縮など経済社会の変化に伴って、自然とのふれあいや自由な空間を求めている観光、レクリエーションの需要が増大してきた。

南富良野町の観光資源はかなやま湖（金山ダム）湖畔周辺の野外活動園地の他、日本新八景の一つにかぞえられる狩勝峠や国設南ふらのスキー場、更に溪谷の自然美が残っている十梨別溪谷等があり、現在ダム周辺環境整備事業により観光レクリエーション基地として基盤整備が進められているなかで着実に本町の観光人口は増加傾向を示している。

なお最近では、全国各地で大型リゾート開発が進められており、南富良野町周辺にもフラノ、トマム、サホロなど大規模な観光・リゾート地が整備されている。南富良野町は位置的にこうしたリゾート地の中心にあり、今後の開発が期待されている。こうしたなかで総合保養地域整備法による富良野・大雪リゾート地域整備の基本構想が国の承認を受けており、町内のかなやま湖、トマム地区（落合岳周辺）が対象とされている。

最近の観光の方向は従来の見る観光から、参加、体験、研修、人と人、人と自然とのふれあいの観光へと質的に変化しており、イベントづくりや、農業、漁業など地場の産業と結びついた特産品の開発や観光農園、あるいは体験観光など多様化したニーズに対応できる体制づくりも重要な課題となってきたが、現在、町の特性を生かしたイベントとして「湖水まつり」「氷点下まつり」などが行われているが、今後こうしたイベントの充実をはじめとして、アウトドアスポーツの振興や観光・リゾート開発にあわせた新しい産業の振興なども重要な課題となっている。

#### 4-4 人口密度の字別（地区別）分布

南富良野町における字別（地区別）面積、平成5年の住民基本台帳による人口を用いて用途地域別に人口密度を算出する。

表4-5に人口密度配分表を示す。

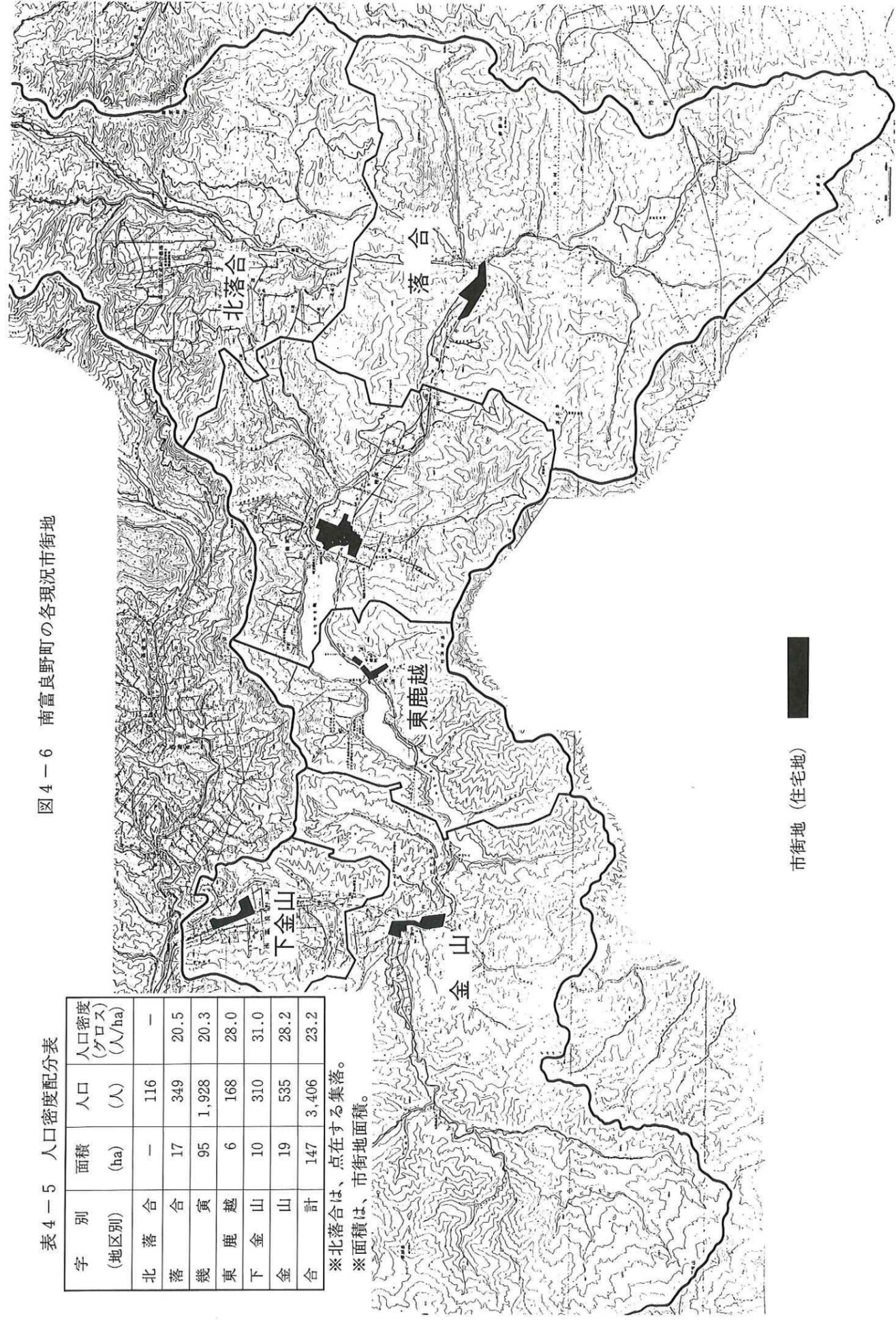
表 4-5 人口密度配分表

字 別 (地区別)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (クロス) (人/ha)
北 落 合	—	116	—
落 合	17	349	20.5
幾 寅	95	1,928	20.3
東 鹿 越	6	168	28.0
下 金 山	10	310	31.0
金 山	19	535	28.2
合 計	147	3,406	23.2

※北落合は、点在する集落。

※面積は、市街地面積。

図 4-6 南富良野町の各現況市街地





第 5 節 上 水 道



## 第5節 上水道

### 5-1 上水道の現況

南富良野町水道事業は、金山湖周辺の河川の表流水を水源とする5簡易水道事業と1飲料水供給施設を運営し、平成3年度現在、給水区域内人口3,068人のうち2,935人に水道水を供給している。普及率は95.7%である。

表5-1 簡易水道の状況（平成3年3月現在）

（単位：人、%）

地区名	北落合	落合	幾寅	東鹿越	金山	下金山	合計
給水区域内人口	120	345	1,769	95	518	221	3,068
給水人口	120	306	1,743	95	457	214	2,935
普及率	100.0	88.7	98.5	100.0	88.2	96.8	95.7

本町の水道事業は、幾寅市街地の全域を給水区域とし、昭和39年12月に幾寅地区簡易水道を創設して以来、金山市街地の全域及び十梨別の一部を給水区域とする金山地区簡易水道、落合市街地の全域給水区域とする落合地区簡易水道、下金山市街の内栄町、曙町、朝日町、日の出町、農栄、東栄を給水区域とする下金山地区簡易水道、北落合簡易水道、東鹿越新町、農材、公共施設を給水対象にする東鹿越地区飲料水供給施設と5簡易水道と1飲料水供給施設を創設してきた。

近年は町民生活も都市化が進み、家庭用水の需要も増えてきており、さらに公共下水道の整備により水需要の増大が見込まれる。こうしたなかで水源の確保は水利権の問題もあり難しい面もみられるが、安定した給水体制を整備していくことが急務となっている。

各事業の給水開始年月日、現認可年月日及び、計画給水人口を表5-2に示す。

表5-2 南富良野町水道事業の概要

	名 称	給水開始 年月日	現 認 可 年月日	計画給水人口 (人)	計画給水量 (m <sup>3</sup> /日)
1	幾寅地区簡易水道	S39.12.01	S59. 6.27	2,000	700
2	金山地区簡易水道	S40. 4.01	S51. 6.30	2,000	300
3	落合地区簡易水道	S42. 4.01	S45. 3.31	1,800	270
4	下金山地区簡易水道	S46. 4.01	S45. 3.31	1,000	150
5	北落合地区簡易水道	H 3. 4.01	H 3. 5.29	120	148
	計			6,920	1,568
6	東鹿越地区飲料水供給施設	S52.12.		99	30
	計			7,019	1,598

(1) 幾寅地区簡易水道

幾寅地区簡易水道は、昭和39年12月、幾寅市街地の全域を給水区域とし、計画給水人口2,000人、計画給水量400m<sup>3</sup>で創設した。その後、昭和59年に給水区域を岐阜、内藤、松井の一部に拡張し、合わせて計画給水量を700m<sup>3</sup>に増加する事業変更を行って、現在に至っている。

幾寅地区簡易水道の現況は以下の通りである。

項目	既認可計画	平成4年度実績
給水人口	2,000人	1,722人
日最大給水量	700m <sup>3</sup>	695m <sup>3</sup>

本地区の、給水人口は、計画給水人口に達していないものの、日最大給水量は計画値に達している。

給水人口は、地方の過疎化現象の影響を受け、過去に減少をしていたが、ここ数年は減少傾向に歯どめが掛かり、安定してきている。

給水量は、生活様式の向上に伴う一人当たり給水量の伸び物産センター及び、農産物加工センター等の新設に伴い増加している。

更に、この地区は下水道の供用も予定されているため、計画値の見直しをし、変更認可を計画中である。

## 5-2 上水道給水実績

幾寅地区の給水区域内人口及び給水人口の推移は以下の表5-3に示した過去10ヶ年の値の通りである。

表5-3 幾寅地区給水人口実績の推移

年 度	給水区域内人口 (人)	給 水 人 口 (人)	普及率 (%)	備 考
昭和58	(1,827)	1,735	95.0	( ) は拡張区域含
昭和59	1,806	1,705	94.4	変更認可
昭和60	1,844	1,746	94.7	
昭和61	1,857	1,755	94.5	
昭和62	1,806	1,774	98.2	
昭和63	1,743	1,717	98.5	
平成 1	1,771	1,745	98.5	
平成 2	1,769	1,743	98.5	
平成 3	1,743	1,716	98.5	
平成 4	1,748	1,722	98.5	

計画給水区域内人口は、昭和58年度より昭和62年度までは1,806人から1,857人の間を上下し、昭和63年度より平成4年度までは1,743人から1,771人の間で推移している。

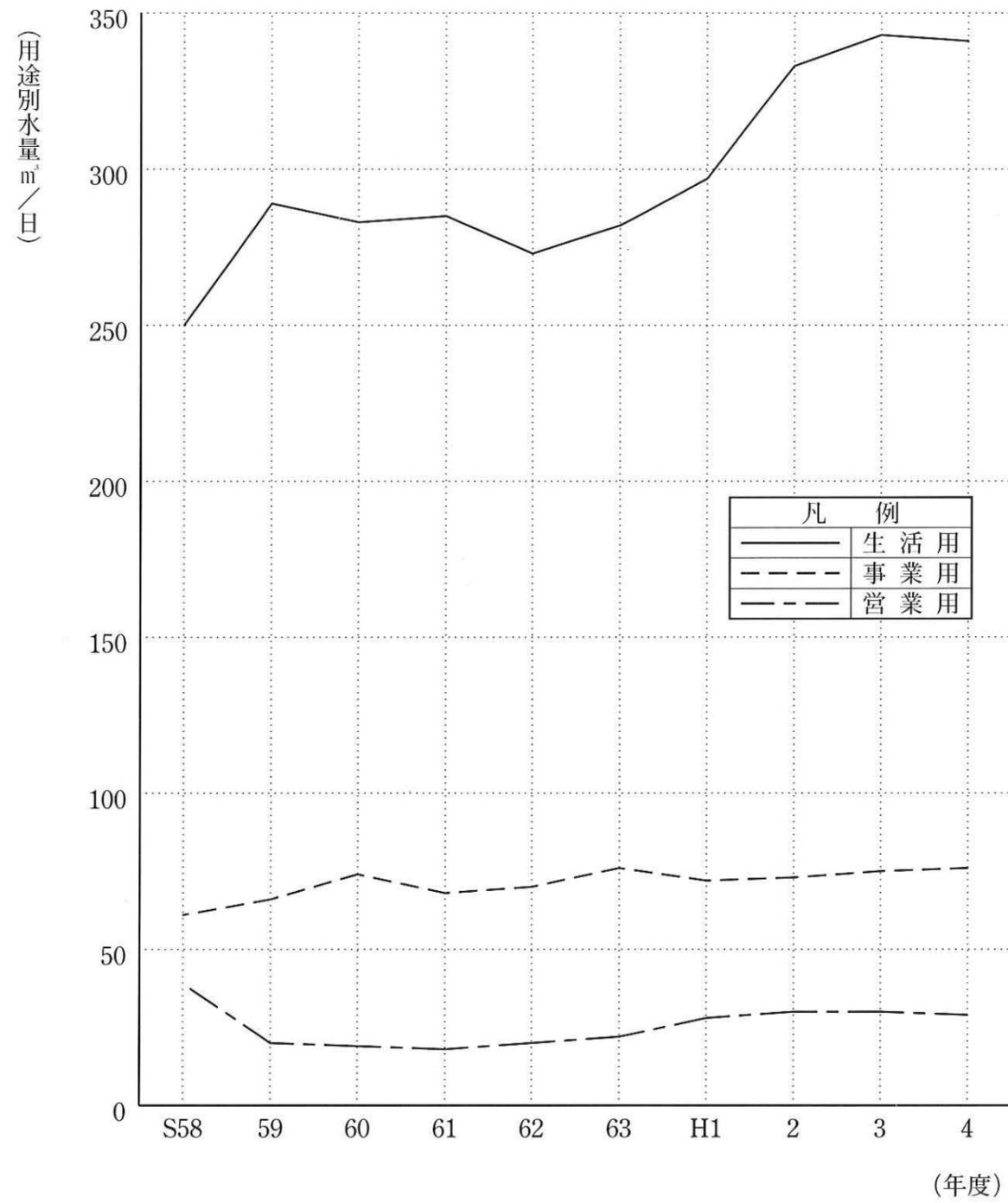
過去においては、本町も地方の過疎化現象のために減少傾向を示していたが、ここ数年は減少傾向に歯止めが掛かり1,750人前後で安定している。

なお表5-4に幾寅地区の給水量の実績推移を示す。

表5-4 幾寅地区の給水量の実績推移

項目	年度 (昭和~平成)		人口 (人)	戸数 (戸)	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1	H 2	H 3	H 4
	給水	給水												
用途別水量	生活用	1人1日平均使用水量 (ℓ/日)	1,653	608	169.5	1,705	1,746	1,755	1,774	1,717	1,745	1,743	1,716	1,722
	有収	1日平均使用水量 (m <sup>3</sup> /日)	151.2	289	250	289	283	285	273	282	297	333	343	341
	事業用	1日平均使用水量 (m <sup>3</sup> /日)	61	66	74	66	74	68	70	76	72	73	75	76
	営業用	1日平均使用水量 (m <sup>3</sup> /日)	39	20	19	20	19	18	20	22	28	30	30	29
水量	営業用水率 (事業用+営業用)		0.40	0.30	0.33	0.33	0.30	0.33	0.33	0.35	0.34	0.31	0.31	0.31
	有収水量	有収水量計 (m <sup>3</sup> /日)	350	375	376	371	363	380	397	436	448	446	446	446
無効水量	無効水量	無効水量計 (m <sup>3</sup> /日)	64	48	44	38	40	34	44	49	49	49	49	32
	有効水量	有効水量計 (m <sup>3</sup> /日)	414	423	420	409	403	414	431	480	497	478	478	478
無効水量	無効水量	無効水量計 (m <sup>3</sup> /日)	140	147	103	66	126	77	59	42	86	86	86	131
	有効水量	有効水量計 (m <sup>3</sup> /日)	554	570	523	475	529	491	490	522	583	583	583	609
1日平均給水量	1日平均給水量 (ℓ/日)	335	334	300	271	298	286	281	299	340	354	354	354	354
1日最大給水量	1日最大給水量 (m <sup>3</sup> /日)	628	670	648	568	683	657	681	768	712	695	695	695	695
1日最大給水量	1日最大給水量 (ℓ/日)	380	393	371	324	385	383	390	441	415	404	404	404	404
有収率	有収率 (%)	63.2	65.8	71.9	78.1	68.6	77.4	81.4	83.5	76.8	73.2	73.2	73.2	73.2
有効率	有効率 (%)	74.7	74.2	80.3	86.1	76.2	84.3	88.4	92.0	85.2	80.6	80.6	80.6	80.6
負荷	負荷率 (%)	88.2	85.1	80.7	83.6	77.5	74.7	72.0	68.0	81.9	87.6	87.6	87.6	87.6

図5-5 幾寅地区の用途別水量の実績推移



## 第 6 節 産業の現況



## 第6節 産業の現況

### 6-1 南富良野町の産業の現況

南富良野町の基幹産業は第1次産業で、農業では産業基盤の整備と充実、経営の近代化や機械化促進などでは安定した生産力を発揮してきている。しかしながら最近の内外の農業情勢には厳しいものがあり、活力ある農村づくりのために積極的な施策対応が必要とされている。

最近の農業をめぐる新しい課題としては、農業の情報化の推進、バイオテクノロジーなどの技術の導入、流通機構の調査、開拓、あるいは観光農業、農産物の加工技術の向上等、新しい分野への積極的な取り組みが必要となっている。

一方、第2次産業では、地下資源に恵まれた本町は、過去において砂金、石炭の採掘がなされてきたが、現在では3か所の鉱業所で石灰石の採掘とその加工がなされている。

工業の振興は町の経営面での貢献はもちろんのこと、若者の定住、就業機会の拡充など重要な意味を持っているが、南富良野町内の事業所数は平成2年には7か所あり、従業者数93人、製造品出荷額2,336百万円となっている。

工業の業種は、これまでは林産加工と土石製品に限られていたが、地域の技術の向上がはかられてきた結果、農産品など地場の産品を活用した新しい産業の振興も拡大しつつある。

更に、富良野・大雪リゾート地域整備の重点整備地区になっている本町のかなやま湖地区とトマム地区（落合岳周辺）の観光産業が、本町の新しい有望な産業として位置付けられている。

表6-1 商業・鉱工業

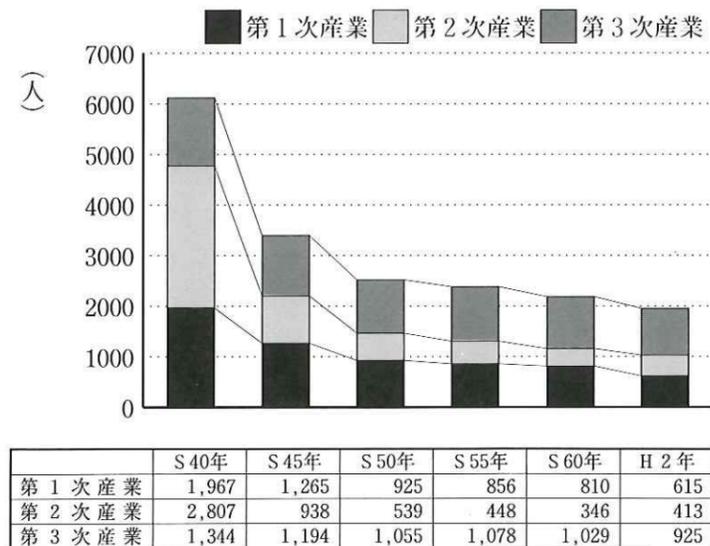
■業種別商店数および従業員数（昭和63年商業統計調査）

		落 合	幾 寅	東鹿越	金 山	下金山	合 計
卸 売 業	商店数					1	1
	従業員数					78人	78人
小 売 業	商店数	8	29	3	18	4	62
	従業員数	23人	94人	8人	45人	10人	180人
飲 食 店	商店数	5	8	2	3		18
	従業員数	14人	22人	11人	4人		51人

■業種別事業所数および従業員数（昭和63年工業統計調査）

		落 合	幾 寅	東鹿越	金 山	下金山	合 計
木材木製品 製 造 業	事業所数	1	2				3
	従業者数	27人	32人				59人
土石製品 製 造 業	事業所数	1		3			4
	従業者数	3人		36人			39人
食 品 製 造 業	事業所数		1				1
	従業者数						

※食品製造業の農産物加工センターは、平成5年より供用開始。



・南富良野町の産業別就業者数の推移

第 7 節 雨水計画関連調査



第7節 雨水関連調査

7-1 樋門の現況及び河川計画

表7-1に既設樋門の計画値、規模、流下能力などを、表7-2に河川計画諸元値を示す。

表7-1 樋門の現況

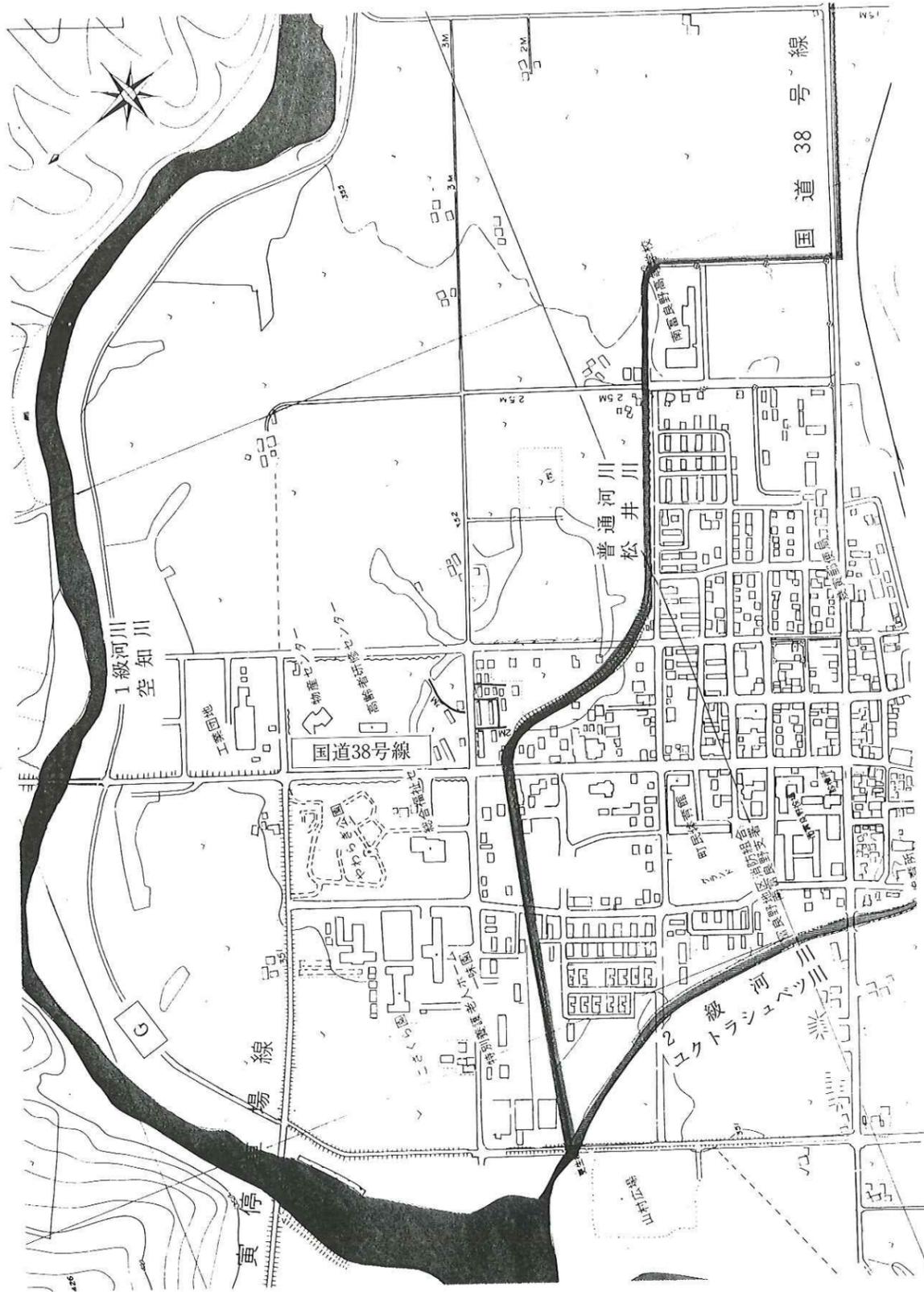
樋門名	流域面積 (ha)	断面形状 (m) 縦×横×延長～連	流下能力 (m <sup>3</sup> /sec)	完成年度	ゲート操作 仕様
樋門					鋼製 手動

表7-2 既設樋門位置での河川計画諸元値

樋門名	放流先 河川名	計画築定高 (M)	計画高水位 (M)	計画高水 敷高(M)	計画河床高 (M)
樋門	空知川				

図7-1に既設樋門の計画流域を示す。

図7-1 樋門計画流域図

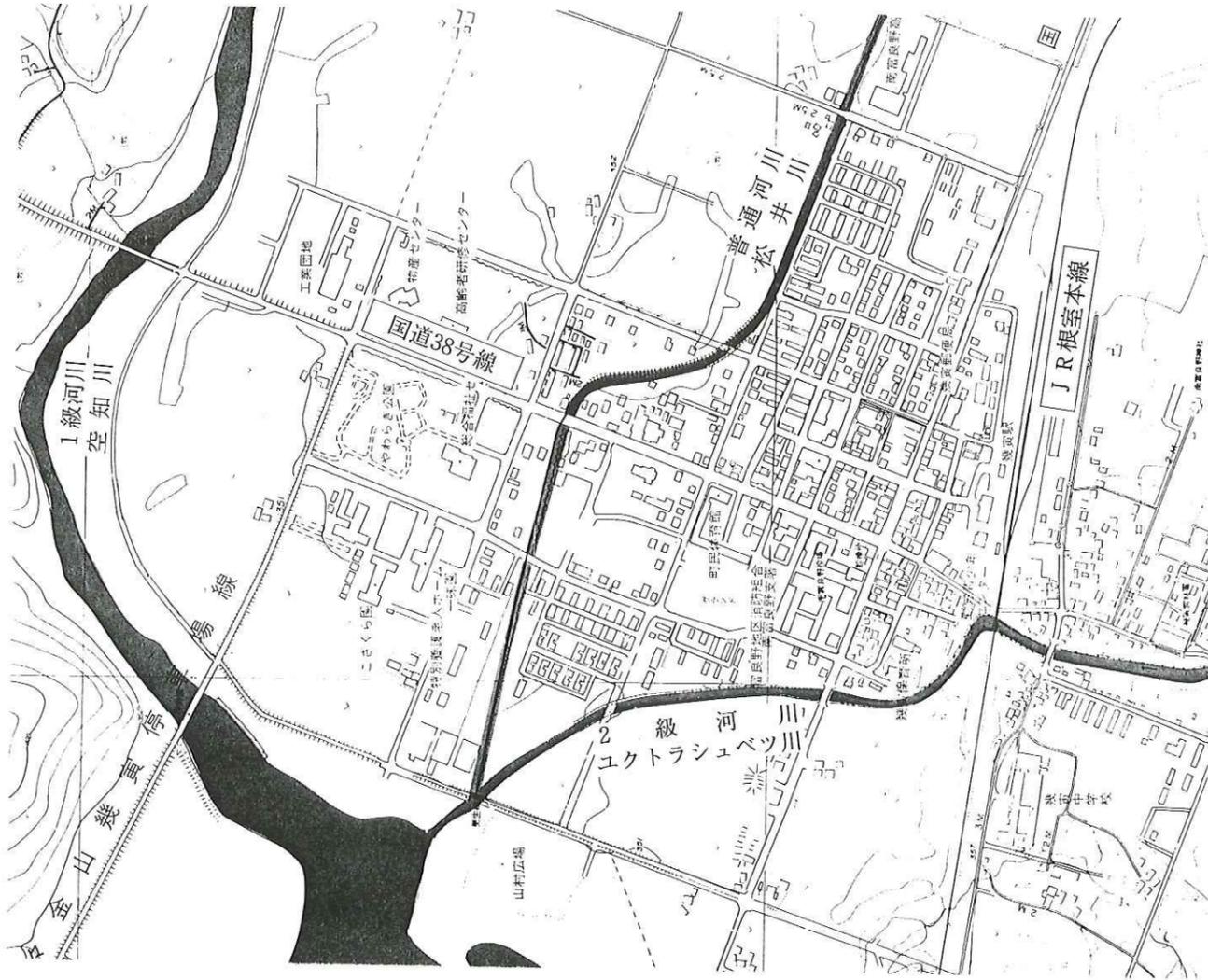


## 7-2 浸水状況

幾寅地区市街地の雨水排水は空知川、ユクトラシュベツ川及び松井川の3河川に自然流下にて排除されている。これらの公共用水域への雨水放流に対し、現在のところ系統的に整備された雨水排除施設によりスムーズな排除がなされている。しかし、極部的に土地が周囲より低い所では、大降雨時や融雪期には浸水状態になることもある。

図7-2に浸水発生ヶ所を示す。

図7-2 浸水発生ヶ所図





第 8 節 その他の調査



## 第8節 その他の調査

### 8-1 し尿処理の現況

南富良野町のし尿処理は、富良野市、中富良野町、南富良野町及び占冠村1市2町1村の組合による処理体制で行われている。南富良野町の計画処理区域の状況は表8-1に示すとおり。

表8-1 計画処理区域の状況

計画処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	330.00
計画処理区域内世帯数 (世帯)	1,345
計画処理区人口 (人)	3,633
非水洗化人口	3,323
水洗化人口	310
公共下水道人口	0
コミュニティ・プラント人口	0
浄化槽人口	310
計画処理区域外人口	0

近年では町民の間にも浄化槽を設置する家庭が増えてきていて、その適正管理が大きな課題となっており、業者や町民への指導体制の強化も必要となってきている。

また、浄化槽汚泥の処理量も増加するものとみられ、広域的な対応のなかで処理体制の強化を検討していく必要もある。

なお、将来はし尿処理量の軽減をめざして、公共下水道の整備、あるいは合併処理浄化槽の普及にも取り組んでいく必要もある。

つぎに組合各市町村別し尿収集量の推移を表8-2に示す。

表8-2 し尿収集量の推移  
(昭和61年～平成3年)

市町村 年	富良野市 (kl)	中富良野町 (kl)	南富良野町 (kl)	占冠村 (kl)	計 (kl)	年間稼 動日数
昭和55年	12,358	2,497	2,245	629	17,729	273
昭和61年	14,103	2,710	2,131	747	19,691	303
昭和62年	15,019	2,825	2,169	881	20,894	321
昭和63年	15,732	2,783	2,135	1,073	21,723	334
平成元年	16,204	2,870	2,084	1,259	22,417	345
平成2年	17,049	2,805	1,925	1,200	22,979	354
平成3年	16,625	2,856	2,024	1,713	23,218	357